

基本方針（3）文化の振興・支援

(様式1)

基本施策No. (様式2)	関連する予算事業名 (様式3)	担当課・施設
⑬	文化団体等補助金	文化振興課
	文化芸術企画支援事業費	文化振興課
	文化振興事業費	文化振興課
	つるが芭蕉紀行開催事業費	文化振興課
⑭	市民文化センター運営事業費	文化振興課
	展示会開催費	博物館
	みなとつるが山車会館魅力向上事業費	みなとつるが山車会館
⑮	文化財保護審議会運営費	文化振興課
	文化財保存管理補助金	文化振興課
	食文化ストーリー創出・発信事業費	文化振興課
	文化財保護管理費	文化振興課
	文化財保存活用地域計画策定事業費	文化振興課
⑯	文化財発掘調査費	文化振興課
	柴田氏庭園保存修理事業費	文化振興課
	文化財広報普及事業費	文化振興課
	史跡武田耕雲斎等墓活用整備事業費	文化振興課
	西福寺文化財保存修理事業費補助金	文化振興課
	文化財センター整備事業費	文化振興課
	調査研究費	博物館
	館蔵品購入費	博物館
	館蔵品記録整理事業費	博物館
	「白木のあゆみ」保存活用事業費	博物館
	博物館管理運営費	博物館

令和6年度 自己点検・評価調書 【振興基本計画:基本方針】

主担当課: 文化振興課

基本方針	(3)文化の振興・支援
------	-------------

計画目標	実績					目標
	R3	R4	R5	R6	R7	R7
市民1人あたりの文化行事参加回数を増加させます。(市民換算) 基本施策 13	0.26回	0.29回	0.44回	0.57回		0.36回
各種文化施設(※)利用者を増加させます。 基本施策 14	34,007人	43,830人	62,325人	82,982人		54,000人
市指定文化財の指定数を増加させます。 基本施策 15	197件	197件	198件	198件		202件
文化財の活用に向けた整備着手件数を増加させます。 基本施策 16	2件 (累計 4件)	1件 (累計 5件)	0件 (累計 5件)	1件 (累計 6件)		6件(累計)

※各種文化施設:博物館、みなとつるが山車会館、市民文化センター

基本施策	13 文化意識の向上 14 市民文化の活動拠点の整備・充実 15 文化財の保護・支援 16 文化財の活用の推進
------	--

令和6年度 自己点検・評価調書 【振興基本計画:基本施策】

基本施策	③文化意識の向上
担当課(施設)	文化振興課

計画の 分析と評価	主な実施内容とその評価
	<p>①気比史学会、敦賀市文化協会、水戸烈士遺徳顕彰会に団体補助金を交付し、各団体において事業を実施した結果、補助団体関連の事業への参加者が昨年度を上回ることとなり、市民が敦賀の歴史・文化に触れる機会の増加につながった。 (気比史学会・文化協会事業参加者数比較 R5年度 8,762人 → R6年度 8,925人)</p> <p>②市民が主体となって開催する舞台芸術の事業に対し補助金を交付した。対象件数は1件減少したものの、応募のあった3件の公演の入場者数は昨年度よりも大幅に多いものとなり、市民による文化活動の参加が促進されたものとする。</p> <p>③個人や団体の文化芸術活動に対して激励費の支給や表彰を、昨年度と同程度の件数実施し、文化活動の活性化につなげることができた。</p> <p>④つるが芭蕉紀行全国俳句大会で投句を募集し、一般の部、こどもの部合わせて1,747句の応募があった。(前年度2,764句)また、本大会の代わりに俳句ワークショップを開催し、44人の来場者を得ることができ、市内外に敦賀の文化としての俳句を周知することができた。</p>
	計画の実施や目標達成に向けた今後の課題
	<p>①団体事業への参加者数が前年度と比較して増加したが、コロナ禍以前の数には及んでいない。</p> <p>②③過去に交付、支給実績のある個人、団体の申請が一定数ある。</p> <p>④事業協力団体(敦賀俳句作家協会)が高齢化により協働できなくなる可能性が高く、今後の事業の実施方法等を検討する必要がある。</p>
	課題に対する今後の方向性
	<p>①文化関連事業を着実に実施してもらうとともに、市主催事業への積極的な参画を促す。</p> <p>②③補助金、激励費の制度についてより活用できるよう、引き続き周知の強化を行う。</p> <p>④事業を引き続き市が主催するとともに、投句に限らず、市民が俳句に親しめる方法を模索する。</p>

自己評価区分

A : 前進

B : 維持(前進もしくは後退について判断が難しいものや判断ができないものを含む)

C : 後退

自己評価

B

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：文化振興課

事業名	文化団体等補助金				
予算額	5,630 千円	決算額	5,630 千円	前年度決算額	5,243 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑬文化意識の向上				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)	文化団体と連携し、時代の市民文化の担い手が文化財や文化活動に接する機会の拡大を図る。
	(基本施策に関連する事業の概要)	市民文化の向上のために公益的な活動を行っている団体(①気比史学会、②敦賀市文化協会、③敦賀水戸烈士遺徳顕彰会)に対し支援した。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	①気比史学会主催で市民歴史講座を全5講開催した。(受講者：延べ438名) ②敦賀市総合美術展等の文化協会主催事業のほか、敦賀市で市町文協選抜美術展を開催した。(市教育委員会の共催、後援、補助事業：13事業 参加者延8,487名) ③国指定史跡武田耕雲齋等墓周辺の保全管理、水戸烈士遺徳顕彰行事開催、水戸天狗党に関する普及啓発活動等を実施した。

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)	敦賀市文化協会について、会員の活動を活性化させるため、市事業への積極的な参画を協議する。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)	・気比史学会が実施した市民歴史講座において、講座のテーマに合わせ、第4講は松原神社例大祭及び史跡武田耕雲齋等墓リニューアルオープンと、第5講は市立博物館の特別展と時期を合わせて開催した。 ・市で実施した全国俳句大会こどもの部の優秀作品等を文化協会開催事業の中で展示するなど、市と協働して市民の文化活動を披露する機会を作った。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	・敦賀市文化協会において、所属会員団体の高齢化、文化活動への参加手段の多様化等により、協会会員数の減少及び団体ごとの活動に対する取り組みの差が大きくなってきている。
	(総合評価)	各団体の補助対象事業はほぼ計画通り実施された。また、市主催事業等に絡めた事業の開催もあり、文化事業全体の参加者数が増加し、市民が敦賀の歴史・文化・芸術に触れる機会を増やすことができた。

今後の方向	①継続	
	すぐに取り組む事項(次年度から)	敦賀市文化協会について、会員数及び若年齢者数の増加を図るため、会員団体の周知強化を働きかける。
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)	・各団体の持続、活動の継承に向けた次世代育成が必要。 ・西公民館移転に伴い、敦賀市文化協会の事務所を移転する必要があり、協会が主体となった候補地選定を行う必要がある。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：文化振興課

事業名	文化芸術企画支援事業費			継続	
予算額	6,052 千円	決算額	6,025 千円	前年度決算額	3,672 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策③文化意識の向上				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的) 市民の主体的な文化芸術活動への参加を促進するため、団体等の活動を支援し、優れた舞台芸術・伝統芸能等を市民が鑑賞する機会を提供する。 文化施設での音楽・芸術鑑賞等を通じて、市民が文化芸術に触れる機会を提供する。
	(基本施策に関連する事業の概要) 演劇や音楽、伝統芸能などの文化芸術事業を自主的に企画・実施する団体を公募し、審査の上補助を行った。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など) ①杉原千畝物語オペラ「人道の桜」敦賀公演実行委員会 「杉原千畝物語オペラ「人道の桜」敦賀公演 令和6年11月30日(土)入場者1200名(ゲネプロ含む) ②琉球國祭り太鼓福井支部 琉球國祭り太鼓福井支部15周年記念公演「叶う～慶びの舞～」 令和6年7月14日(日)入場者数543名 ③未来企画「つるがミュージカル・チャレンジ・プロジェクト」令和6年12月14日(土)、15日(日) 入場者数300名

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容) 舞台芸術文化の振興と向上のため、継続して自主団体を支援する
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など) 補助事業者との協議連携の機会を頻回に持ち、事業の充実・活性化に努めた。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など) ・応募事業者の中に、過去に補助金を交付した団体が一定数ある。 ・応募団体の補助要望額が大きいものであったため、希望額を補助することができなかった。
	(総合評価) ・応募件数は3件であり、昨年度に比べ1件減少したが、3件すべての事業に対し補助することができた。 ・補助団体のうち、3件中2件は新規団体、1件は5年ぶりの補助であったが、事業内容が音楽のみならず、オペラやミュージカルなど演劇関係のジャンルが開催されたことにより、プロと市民の共演や鑑賞する機会を提供いただけたことは市民の文化振興に対する意識向上につながったと考える。 ・オペラは、ゲネプロでの市内中学生(5校)を無料招待があり、市内の中学2年生に鑑賞する機会を与えていただいたことも文化振興の意識向上につながったと考える。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から) ・舞台芸術文化の振興と向上のため、継続して自主団体を支援する。
	中長期的な検討課題(3～5年の期間) 市民主体の舞台芸術文化の更なる向上を図るため、補助対象分野や募集条件、要綱の見直しを検討する。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：文化振興課

事業名	文化振興事業費		継続	
予算額	648 千円	決算額	554 千円	前年度決算額 251 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑬文化意識の向上			
第8次総合計画	その他			

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的) 市民の主体的な文化芸術活動への参加を促進するため、団体等の活動を支援する。文化活動の活性化を図るため、文化芸術及び科学技術の分野で優れた成績を収めた個人や団体の活動を奨励する。
	(基本施策に関連する事業の概要) 市民団体等が実施する文化芸術事業に対する共催・後援、文化芸術活動激励費の贈呈、文化芸術及び科学技術活動優秀賞表彰
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など) 市民団体等が実施する文化芸術事業(市内開催)に対する共催・後援(41事業) 文化芸術活動激励費の贈呈(5個人、4団体) 文化芸術及び科学技術活動優秀賞表彰式(12名、9大会)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容) 激励事業の周知及び対象者の掘り起こし
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など) 文化芸術及び科学技術活動優秀賞の選定に当たり、広く学校等に推薦を求めた。市役所庁舎及び柴田氏庭園を活用して、プロの音楽家によるコンサートを実施した。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など) 激励費支給・表彰の事業をより広く周知するための方法を検討する必要がある。市民がより気軽に文化芸術に参加する機会を創出する手段を検討する必要がある。
	(総合評価) 市庁舎及び柴田氏庭園での音楽コンサートでは一定数の集客ができ、市民が文化芸術に触れる機会の増加につながったものと考えられる。文化芸術・科学技術分野で活躍する市民への激励費贈呈、表彰については、例年と同程度の数の支給、授与をすることができ、文化芸術活動に対する市民のモチベーションづくりと、本市の文化水準の向上を図ることができた。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から) 激励費支給・表彰事業の周知を強化する。 敦賀市文化協会と市民作品展示の方法についての協議を進める。
	中長期的な検討課題(3～5年の期間) 庁舎を含めた市施設における市民作品の展示・発表活動の促進方法を検討する。(敦賀市文化協会と引き続き協議を行う。)

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：文化振興課

事業名	つるが芭蕉紀行開催事業費			継続	
予算額	2,250 千円	決算額	820 千円	前年度決算額	1,700 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑬文化意識の向上				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	(基本施策に関連する事業の概要)
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)

関係文化団体と協働しながら、市民の主体的な文化芸術活動への参加を促進する。

「奥の細道」つるが芭蕉紀行 全国俳句大会投句募集に関し、敦賀俳句作家協会に協力を得ながら、市主催で開催した。

全国俳句大会投句募集
参加者数 一般の部 294句(前年度 事前投句718句、当日投句93句)
こどもの部 1,453句(前年度2,046句)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	(総合評価)

若年層にも取り組めるよう、一般の部でもオンライン投稿を取り組み実施する。

今年度も引き続き、こどもの部の応募方法に電子申請(オンライン投稿)を取り入れた。高齢化により、令和5年度までの主催団体による事業の実施ができなくなったため、令和6年度は市が主催となり事業規模を縮小して投句募集と俳句ワークショップを実施した。投句募集については、市ホームページに掲載するほか、松尾芭蕉ゆかりの地の市町村等へチラシの配布及び周知依頼を行った。

事業の実施には令和5年度まで主催していた俳句団体の協力が不可欠だが、高齢化により、団体そのものの存続が危ぶまれている状態。

令和6年度は、令和5年度までの主催団体に代わり、市が主催となり規模を縮小したものの、事業そのものは継続して実施することができた。周知を強化した結果、市外、県外からの投句が増加したものの、募集の開始が前年度に比べ遅い時期となった影響もあり、合計投句数は前年度に比べ大幅に減少した。

今後の方向	⑤転換
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)

早い時期での投句募集開始及び投句数の増加策を検討する。

高齢化による俳句作家協会との連携を密にし、市民が俳句へ気軽に親しめる方法を模索する。

令和6年度 自己点検・評価調書 【振興基本計画:基本施策】

基本施策	⑭市民文化の活動拠点の整備・充実
担当課(施設)	文化振興課・博物館・みなとつるが山車会館

主な実施内容とその評価	
計画の 分析と評価	<p>【文化振興課】</p> <p>①市民文化センターにおいて、自主事業として鑑賞型事業(音楽コンサート、オーケストラ公演、落語公演等)、参加型事業(音楽フェス、ステージ発表等)、育成型事業(セミナー、講座等)が実施された結果、前年度の入場者10,816人に比べ、1.89倍にあたる20,490人の入場者を得た。</p> <p>文化センター全体の利用者数もこれに後押しされ、前年度の37,889人に対し、1.37倍にあたる52,201人となり、大幅な利用の促進が図られた。</p> <p>【博物館】</p> <p>①展示会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「日本横断! 運河計画」 ・企画展「海湖(うみ)とつながる敦賀の鉄道～終着駅から始まった～」等、全7本開催 <p>交通の要衝としての敦賀の歴史を象徴する古代から現代までの運河計画について取り上げ、歴史的背景を整理し、実態を明らかにした。市内外から多数の来館者があった。また新幹線開業を記念して多様な企画展を実施し、敦賀の歴史を様々な角度から紹介することが出来た。</p> <p>②イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展記念講演会、第22回吉継カフェ等、全9回開催 <p>歴史ウォーキングや初心者向け古文書講座などを通して、身近な地域の歴史に触れる機会を提供することができた。特別展記念講演や吉継カフェはより深く地域の歴史に対して理解を深める機会とすることができた。</p> <p>【みなとつるが山車会館】</p> <p>①魅力向上事業の補完及びリニューアル1周年の企画展示を実施した。</p> <p>新幹線開業効果もあり、目標数値(KPI)の「令和6年度 年間入館者12,000人」を達成した。</p> <p>リニューアルした展示内容は好評を得ており、来館者アンケートでは「十分」「おおむね足りていた」を合わせて99.9%の高評価となっている。入館者数は開館した平成9年度に次ぐ12,885人、入館料による歳入は過去最高額の1,926,350円という効果となった。</p>
	計画の実施や目標達成に向けた今後の課題
	<p>【文化振興課】</p> <p>①施設の安定した運営、利用を行うため、館内設備の計画的な修繕が必要。</p> <p>【博物館】</p> <p>①市内外からの観光客を引き付ける内容、インパクトのある企画の開催。広報の充実。学校教育や他機関・団体との連携。</p> <p>②広報の充実に加え、市内イベントを念頭に置いた日程調整と、他機関との連携。</p> <p>【みなとつるが山車会館】</p> <p>①新幹線開業効果による来館者増を持続的なものとするため、山車会館及び「つるがの山車」の認知度アップと誘客促進のため広報活動に創意工夫が必要である。</p>
	課題に対する今後の方向性
<p>【文化振興課】</p> <p>①施設の機械設備を中心に、計画的に修繕を実施するための修繕計画を作成する。</p> <p>【博物館】</p> <p>①②今後も敦賀の多様な歴史文化の調査研究を進め、博物館だからこそ掘り起こせる敦賀の魅力を表示やイベントの場で発信していく。また、学校教育や外部団体とも協力し、より多くの市民に博物館を身近に感じてもらうよう活動を行う。</p> <p>【みなとつるが山車会館】</p> <p>①館の魅力向上及び魅力発信を継続して実施していく。</p>	

自己評価区分

A : 前進

B : 維持(前進もしくは後退について判断が難しいものや判断ができないものを含む)

C : 後退

自己評価

A

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：文化振興課

事業名	市民文化センター運営事業費			継続	
予算額	97,006 千円	決算額	79,305 千円	前年度決算額	64,277 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑭市民文化の活動拠点の整備・充実				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	市民文化センターにおいて、指定管理者制度の活用にすることで、市民ニーズに沿った運営を行い、センターの利用促進を図る。
	(基本施策に関連する事業の概要)
市民文化センターの管理運営 指定管理者への指導・助言	
(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	
平成31年4月1日から指定管理者制度を導入 指定管理者 株式会社ケイミックスパブリックビジネス 指定期間 令和5年4月1日～令和10年3月31日 利用件数実績 530件 (R5: 443件 R4:437件 R3:344件 R2:388件) 利用人数実績 52,201人(R5:37,889人 R4:26,996人 R3:20,498人 R2:11,194人)	

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	・不具合が考えられる電気機器類の緊急的な修繕の実施 ・指定管理者による効率的かつ効果的な施設の管理運営
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	指定管理者との連絡会議を定期的に行い、運営状況の把握、懸案事項の協議を行った。
(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	
県内で同時発生的に施設改修の設計が必要になった余波を受けて、本施設の設備修繕計画作成業務委託の契約締結が後ろ倒しになった。	
(総合評価)	
施設利用実績は前年度と比較して1.38倍に及んだことから、指定管理者が自主事業として行った催事(ライブコンサート、オーケストラ、音楽フェス、落語公演等)を中心として、利用者、来場者の増加につなげることができたものと考えられる。	

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	・施設維持のための予防修繕を含めた修繕計画の作成 ・指定管理者による効率的かつ効果的な施設の管理運営
中長期的な検討課題(3～5年の期間)	
施設の機能維持に必要な修繕を洗い出し、中長期的な修繕計画を作成する。	

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：博物館

事業名	展示会開催費		継続	
予算額	9,919 千円	決算額	8,950 千円	前年度決算額 9,620 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑭市民文化の活動拠点の整備・充実			
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト			

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)	年に一度の特別展の外、テーマ展、平常展、自主講座等を開催する。
	(基本施策に関連する事業の概要)	新幹線開業にあわせて特別展1本、企画展を4本を開催し例年よりも規模を拡大した。自主事業として専門家による特別展記念講演会を行った。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	・特別展「日本横断！運河計画」 会期：10月18日(金)～11月24日(日) 入館者2,580人 ・企画展「海湖(うみ)とつながる敦賀の鉄道～終着駅から始まった～」 会期：4月24日(水)～6月16日(日) 入館者3,425人 ほか

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)	市民が知見を得られるような展示の企画。他機関と連携したイベントの開催。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)	これまでその全容と詳細を知ることがなかった日本運河計画について、専門家や所蔵者からの協力を得て研究成果を展示や図録のかたちで発表できた。また、専門家による記念講演会やウォーキングイベント、解説会を行い、市民や県民に運河計画について周知できた。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	新幹線開業を記念して特別展1本、企画展4本と規模の大きい展示を連続させたが、限られた人数で企画やイベントを回すことに限界があった。業務量を見直ししながら計画する必要があった。
	(総合評価)	これまで詳細な調査には至っていなかった運河計画に関する資料を豊富に紹介した特別展や、敦賀の歴史文化をテーマごとに紹介した企画展では市内外から多くの来館者を得ることが出来た。また、他機関と連携したイベントを開催したことで、市民、県民から多くの反応を得ることができた。新幹線開業時レベルの企画本数は業務量的に限界があるため次年度以降は通常通りの本数に抑えるが、その分内容の充実を図り、他機関とも連携しながらイベントの充実にも取り組んでいきたい。

今後の方向	①継続	
	すぐに取り組む事項(次年度から)	市民が知見を得られるような展示の企画。他機関と連携したイベントの開催。
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)	敦賀の多様な歴史文化を取り上げるため、市内文化財の調査を進め、長期的な展示計画を立てる。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：みなとつるが山車会館

事業名	みなとつるが山車会館魅力向上事業費		継続	
予算額	2,624 千円	決算額	1,848 千円	前年度決算額 24,041 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑭市民文化の活動拠点の整備・充実			
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト			

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	(基本施策に関連する事業の概要)
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)

シアター改修等を行い、魅力向上を図る。

北陸新幹線敦賀開業に向け「シアター室改修事業」、「魅力発信事業」の実施により、山車会館メインコンテンツの充実を図り、誘客促進に繋げる。

令和6年度実施事業
・敦賀の祭り映像制作(R5年度中止部分の実施 ※一部中止)
・山車会館広報事業

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	(総合評価)

令和5年度に実施不可能となった事業の補完及び新幹線開業の効果を得るための情報発信の継続。

敦賀の祭り映像制作において、過年度は祭礼の中止等により契約変更が必要となったため、今年度は催行が確定した祭礼について個別に契約する事で事務処理の効率化を図った。広報事業は、リニューアルに合わせて制作した動画広告を活用することで、費用を抑えてSNSへの情報発信を行った。

敦賀の祭り映像制作において、人口減少により縮小開催となっている祭礼は本年度も業務の遂行が不可能となったため、当初予定した制作番組数から1件追加、3件中止で事業終了。今後は、関係課と連携し伝統行事の記録を目的とした別事業に転換して取り組む必要がある。SNSへの動画広告配信は、直接的な効果が見えにくく、継続に理解を得ることが難しい。

今年度は、昨年度までのリニューアル事業の補完を行った。敦賀の祭り映像制作は一部中止もあったが、映像展示の充実だけでなく、地域祭礼の記録としても有意義な整備となり、市民からの好評も得ている。情報発信はSNSでの動画広告配信を継続実施したが、直接的な効果が見えにくく、継続への理解が得られなかった。新幹線敦賀開業効果もあり、本事業の目標数値(KPI)「令和6年度 年間入館者12,000人」を達成することができた。入館料による歳入も過去最高を記録し、成果を出す事ができた。(入館者数:12,885人 前年比113% 入館料:1,926,350円 前年比179%)
来館者アンケートでは、「十分」「おむね足りていた」合計 99.9%(回答数1,145)の高評価。

今後の方向	②完了
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)

本事業により充実した施設の周知及び誘客促進。

今後は、いかに本事業及び新幹線開業の効果を持続していけるかの創意工夫が必要である。

令和6年度 自己点検・評価調書 【振興基本計画:基本施策】

基本施策	⑮文化財の保護・支援
担当課(施設)	文化振興課

計画の 分析と評価	主な実施内容とその評価
	<p>①令和6年度に2回実施した文化財保護審議会において、新たな指定は行われなかったものの、次の指定候補物件に向けて必要な課題の洗い出しを行うことができた。</p> <p>②無形民俗文化財計8件及び山車修繕等への補助を実施した。対象件数については昨年度より増加しており、文化財の保存・管理に寄与することができた。</p> <p>③食文化ストーリー創出・発信事業において、前年度に引き続き、龍谷大学と共同研究・調査を行った結果、県外の昆布加工産業の状況について把握することができた。また、これまでの調査結果をまとめ、パネル展示及びミニシンポジウムを開催し、展示に対して116件の反応、シンポジウムには40人の参加者を得た。</p> <p>④文化財の清掃、管理について昨年度と同様に委託を行い、適切な保存管理ができた。</p> <p>⑤文化財保存活用地域計画策定における関連文化財群の設定が完了し、掲載措置(事業)について、地域計画策定協議会を3回開催し、計画素案を審議することができた。</p>
	計画の実施や目標達成に向けた今後の課題
	<p>①委員の高齢化等による分野の偏りがあり、次の指定候補物件について専門分野の委員が不在の状態となっている。</p> <p>②少子高齢化のため、指定無形民俗文化財のうち、2件が行事を縮小している状態である。</p> <p>③敦賀のおぼろ昆布加工業において、産業構造が複雑で、かつ昆布加工業の枠に収まらない問題の存在が明らかになった。</p> <p>④物価・人件費等の高騰により委託料の見直しをする必要が出てきている。</p> <p>⑤地域計画策定協議会委員から、計画素案について、敦賀市の課題が網羅できていないとの指摘があった。</p>
	課題に対する今後の方向性
	<p>①他専門分野の委員候補を検討する。</p> <p>②行事復活に向けた効果的な支援方法等について、地元保存団体と協議をする。</p> <p>③産業構造等の把握も含めた調査を行い、実態に合わせた保護施策の検討を進める。</p> <p>④委託事業者や地元団体に現状を確認し、見直しが必要な部分について協議をする。</p> <p>⑤協議会委員から指摘のあった事項について整理するとともに、計画への反映方法について検討を行う。</p>

自己評価区分

A : 前進

B : 維持(前進もしくは後退について判断が難しいものや判断ができないものを含む)

C : 後退

自己評価

B

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：文化振興課

事業名	文化財保護審議会運営費		継続		
予算額	235 千円	決算額	79 千円	前年度決算額	166 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑮文化財の保護・支援				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的) 歴史的・文化的価値が認められる市内の地域遺産について文化財指定を行い、価値の顕彰と保護を図る。
	(基本施策に関連する事業の概要) 文化財の調査・保存・指定等についての指導・助言を得るため、文化財保護審議会を開催した。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など) ・審議会開催回数：2回（令和6年8月6日、令和7年1月25日） ・委員数 7名

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容) 次期指定候補物件の調査、課題の整理
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など) 指定候補物件を審議会委員に実見していただき、資料の状態や価値づけの方向性について具体的な意見をもらうことができた。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など) 従前から審議会員の構成に年齢・分野等の点で偏りが課題であったが、今回の指定候補物件についても専門分野の委員が不在の状態となっている。
	(総合評価) 令和6年度には新たな指定は行わなかったが、次の指定候補物件を審議会に示し、指定に向けた調査を進めていくことについて合意を得るとともに、指定に向けて必要な課題の洗い出しを行うことができた。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から) 次指定候補物件の調査、指定に向けた情報のとりまとめ
	中長期的な検討課題(3～5年の期間) 委員の補充

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画・予算事業】

担当課(施設): 文化振興課

事業名	文化財保存管理補助金		継続		
予算額	1,616 千円	決算額	1,539 千円	前年度決算額	1,395 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑮文化財の保護・支援				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)	地域の伝統文化を守り、継承するため、地域の伝承行事保存団体等を支援する。 指定文化財等を適正に保存するため、所有者等への協力・支援を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)	・文化財所有者、保存団体への補助金交付 ・文化財修理に向けた所有者との協議、検討
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	●無形民俗文化財補助金 (市)刀根気比神社の春祭り・秋祭り／初午祭／すてな踊り 30千円／件 ※指定4件中申請3件(休止中1件)／4件中、縮小開催2件(刀根・初午) (県)杵見御田植祭／赤崎獅子舞／相撲甚句／だのせ祭り 30千円／件 ※指定6件中申請4件(休止中2件) (国)敦賀西町の綱引き 550千円 ●敦賀まつり山車保存整備費関係補助金 1件 79,200円 ●指定文化財保存修理等補助金 5件 746千円 ●文化財等公開展示施設管理運営費補助金 1件(郷土博物館) 30千円

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)	アフターコロナにおける無形民俗文化財保存団体の活動状況・必要な支援の確認・実施
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)	緊急対策用の補助予算を措置することで、3件の小規模修理事業についてすみやかに対応することができた。 補助金の申請手続きを通じて、各種行事の実施状況等について現状把握に努めた。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	多くの行事がコロナ前の通常開催に戻つつある中で、2件の行事が内容の省略が続いている。いずれも少子高齢化が要因であり、今後本市としても行事の復活に向けた支援を行う必要がある。
	(総合評価)	新型コロナ後、短縮や簡略化が続く行事について、それぞれの保持団体から状況の聞き取りを実施した。今後これらの行事の復活に向けて引き続きの情報共有を図るとともに具体的支援へとつなげていきたい。 文化財修理については、当初予定事業1件(気比神宮境内防災設備修理)に加えて、緊急の事業4件(天満神社自火報修繕、西福寺総門防蟻、色浜の産小屋修理、高德寺防犯設備整備)を支援した。また、次年度着手事業の準備も行うなど、全体的に着実に前に進めることができた。

今後の方向	①継続	
	すぐに取り組む事項(次年度から)	コロナ後に復活できていない行事の実施団体との連絡、必要な支援の確認・実施
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)	無形民俗文化財後継者育成に向けた取り組みの検討 指定文化財保存修理の計画的実施に向けた文化財の保存状態のチェック等推進

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：文化振興課

事業名	食文化ストーリー創出・発信事業費				
予算額	1,618 千円	決算額	1,434 千円	前年度決算額	3,263 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑮文化財の保護・支援				
第8次総合計画	3 地域経済⑥選ばれる観光、稼ぐ観光プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	(基本施策に関連する事業の概要)
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)

敦賀の伝統産業であるおぼろ昆布加工技術について、その歴史的文化的価値を明らかにし、将来的な保存継承につなげる。

おぼろ昆布加工技術についての調査研究

おぼろ昆布加工技術調査を龍谷大学政策学部と共同で実施した。成果報告として、パネル展示とミニシンポジウムを行った。

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	(総合評価)

追加調査、保護継承策の検討
調査成果の発信

パネル展をオルパーク・市役所の二か所で実施し、より多くの市民の目に触れるよう工夫した。また、パネルの中に見学者がおぼろ昆布の食べ方を付箋に書いて貼付できる参加型のコーナーを設けたが、特にオルパークでは多くの付箋が貼られ盛況であった。

調査が進むほど産業構造が複雑で、かつ昆布加工業の範囲内に収まらない課題(気候変動による昆布漁獲量の減少など)もはらんでいることが明らかとなっており、敦賀市としての施策を検討する上での実効性の想定が難しい。

令和4、5年度に引き続きおぼろ昆布加工についての調査を行った。龍谷大学との共同研究によって、市内に加えて県外の状況についてもさらに調査を進めることができた。令和5年度に作成した報告書の成果をもとに文化庁の無形民俗文化財の登録を行うことができ、記念のミニシンポジウム・パネル展示を実施した。パネルは新幹線開業1周年の街波祭での展示や事業者によるさかなまちでの展示などにも活用されており、「登録」効果による広がりも見られた。
今後は産業構造等の把握も含めた調査を行い、保護施策の検討を進めたい。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)

追加調査、保護継承策の検討
追加調査報告書の作成

後継者不足の解消に向けた具体的取組・施策の実施

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：文化振興課

事業名	文化財保護管理費			継続	
予算額	3,570 千円	決算額	2,946 千円	前年度決算額	4,303 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑮文化財の保護・支援				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	市が管理する文化財の適切な保存管理
	(基本施策に関連する事業の概要)
事業概要	市内文化財の適切な保存管理のため、清掃や施設管理、修繕等を実施する。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など) ・清掃、管理等業務委託 契約数：シルバー人材センター2件、地元団体6件 (清掃・除草：中郷古墳群・武田耕雲斎等墓・玄蕃尾城・小刀根トンネル その他指定文化財 見学施設の保守管理：ランプ小屋・愛発舟川の里・新保陣屋) ・見学者用仮設トイレ設置(玄蕃尾城)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	管理している文化財の現況確認、委託先との協議を通じた実施内容の見直し
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	委託先の各団体と協議し、来年度事業に向けて一部委託料等の見直しを実施した。 清掃業務の請負が困難となった地区(新保・木の芽古道)と協議の上、当課の直轄事業として パートタイム会計年度任用職員による清掃業務の実施を行うこととした。
(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	
物価・人件費等の高騰により、委託料の見直しが必要となっている。	
(総合評価)	
令和6年度は木ノ芽古道の清掃業務を協議によって地元から直轄業務へと移行した。その上 で当初予定通りの清掃・保守管理・修繕等を実施することができた。今後も各文化財の状態を 逐次確認し、必要な修繕の実施や清掃・管理等の内容見直しを行っていく。	

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	管理している文化財の現況確認、委託先との協議を通じた実施内容の見直し(継続)
中長期的な検討課題(3～5年の期間)	
地域と協働した文化財の保存管理の取り組みについて、少子高齢化・過疎化を踏まえた新たな 手法の検討	

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：文化振興課

事業名	文化財保存活用地域計画策定事業		継続		
予算額	13,701 千円	決算額	7,648 千円	前年度決算額	4,830 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑮文化財の保護・支援				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)	文化財保存活用のマスタープランである「文化財保存活用地域計画」を策定し、計画的な文化財行政を推進する。
	(基本施策に関連する事業の概要)	文化財保存活用地域計画策定のための調査、協議会の開催
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	・未指定文化財台帳の作成 ・地域計画策定協議会の開催 3回(令和6年8月28日、令和6年12月25日、令和7年3月21日)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)	・関連文化財群の設定及び掲載措置(事業)の検討 ・地域計画策定経過の公表(ワークショップ成果の公開など)
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)	・計画に記載すべき目標、課題、基本方針、措置(事業)等についてそれぞれの関係が分かりやすいようツリー形式で整理し、協議会に諮った
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	協議会に提示した措置の案について、委員から敦賀市の課題が網羅できていないとの指摘があった。計画期間以降の長期にわたる目標についても必要な事項を掲載できるよう検討が必要となった。
	(総合評価)	令和6年度目標であった関連文化財群の設定を完了し、掲載措置(事業)についても素案を協議会で審議することができた。以後、計画書本文や掲載措置の確定、未指定文化財台帳の整理など計画策定に必要な作業について庁内関係各課とも協議しながら詰めていく。 また、多数の未指定文化財がリストアップされたことにより台帳の整理が遅れ、当初計画していたワークショップ成果等の公表は実施できなかった。次年度は計画素案のパブリックコメントも予定しており、市民への情報公開を重点的に行いたい。

今後の方向	①継続	
	すぐに取り組む事項(次年度から)	・文化財保存活用地域計画の取りまとめ ・パブリックコメント、地域計画策定経過の公表
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)	計画策定後の事業推進体制の構築(官民協働の仕組みづくり)

令和6年度 自己点検・評価調書 【振興基本計画：基本施策】

基本施策	⑩文化財の活用の推進
担当課(施設)	文化振興課・博物館

主な実施内容とその評価	
計画の 分析と評価	<p>【文化振興課】</p> <p>①試掘調査4件、工事立会9件を実施した。</p> <p>②令和6年度の柴田氏庭園の庭園と建物の公開及び建物の貸室利用を実施した結果、入館者数1,387人、貸室利用者361人を得た。また、柴田氏庭園保全整備委員会を1回開催した。</p> <p>③文化財標示板を取替2件、新設1件、敦賀市文化財パンフレットの増刷を1件実施することで、文化財の広報普及を行った。</p> <p>④史跡武田耕雲齋等墓の駐車場整備等を実施し、松原神社例大祭に合わせて整備記念式典を開催し、10月11日より一般公開を開始した。また、史跡武田耕雲齋等墓保存整備委員会を2回開催した。</p> <p>⑤西福寺御影堂などの保存修理に対して補助金を交付した。</p> <p>⑥文化財センター基本構想・基本設計を作成・公開し、建設のための実施設計業務委託契約を締結した。</p> <p>【博物館】</p> <p>①市内の仏教文化財をはじめとする文化財の調査を行った。</p> <p>②郷土ゆかりの資料の収集を行った。</p> <p>③文化財建物(施設建物)の維持管理を行った。</p> <p>④収集資料の撮影・デジタルアーカイブ化及びデータベースへの公開を行った。</p> <p>評価</p> <p>①②③④文化財の調査研究の蓄積、公開を積極的に進めることが出来た。館蔵美術資料のデジタル撮影に取り組むことができた。民具資料の目録化と整理を進めた。文化財建物の修繕と適正な維持管理を行った。</p>
	計画の実施や目標達成に向けた今後の課題
	<p>【文化振興課】</p> <p>①開発に伴う埋蔵文化財調査件数、届出件数が増加していること、また電子申請での書類における標準化ができていないことから業務量が増加している。</p> <p>②入館者数、貸室利用件数が減少傾向にあり、リピーターを獲得できていない。</p> <p>③取替修繕が必要な看板が増加している。また、調査や整備が進み掲載している情報が古くなってきている。</p> <p>④観光客からイベント時以外での鮮蔵内部見学要望があった。</p> <p>⑤建物の解体調査に伴い、文書や位牌など建物以外の周辺史資料の確認も必要となっている。</p> <p>⑥隣接する新学校給食センターと、運用時の来客動線などについて調整が必要。</p> <p>【博物館】</p> <p>①②③④調査研究の深化。資料購入の充実。民具資料を含む館外で管理している資料の整理計画の作成。データベース化による利便性の向上。文化財建物の修繕計画。「白木のあゆみ」のデータ化。</p>
	課題に対する今後の方向性
<p>【文化振興課】</p> <p>①様式の標準化等により、業務の効率化を行う。</p> <p>②新たな視点での広報方法や施設の特徴を活かした集客方法を検討する。</p> <p>③計画的に修繕ができるよう、管理している文化財標示板の整理を行う。</p> <p>④観光ボランティアガイドつるがに申し込む形での運用を開始しており、当面はこの体制を維持する。</p> <p>⑤市学芸員による史資料調査への協力を行う。</p> <p>⑥新学校給食センター担当課と細目に調整を行う。</p> <p>【博物館】</p> <p>①②③④文化財活用の基盤となる、資料収集・調査研究を今後も継続し、幅広い活用に向けてデータベースの利便性向上を検討する。文化財建物修繕について長期的な計画を立て、重要文化財である旧大和田銀行本店本館を保護しつつ来館者にとってより快適で魅力ある建物にする。</p>	

自己評価区分

A : 前進

B : 維持(前進もしくは後退について判断が難しいものや判断ができないものを含む)

C : 後退

自己評価

B

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：文化振興課

事業名	文化財発掘調査費				
予算額	4,069 千円	決算額	2,959 千円	前年度決算額	1,185 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩文化財の活用の推進				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	(基本施策に関連する事業の概要)
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)

開発等に伴う埋蔵文化財の損壊を防ぐため、調査を行う。

開発行為の届出に基づく現地調査、事前の試掘調査等の実施。
出土品の整理・報告。

・発掘届受理件数・・・38件 ・試掘調査件数・・・4件 ・工事立会件数・・・9件
・出土品整理作業・・・中遺跡出土品(1986, 1989, 1997調査出土資料の再整理等)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	(総合評価)

・開発事業に伴う埋蔵文化財調査(継続)
・既存の発掘調査成果(報告書)の電子公開

整理作業場を旧成新小学校から旧赤崎小学校に移転するにあたり、資料や所蔵書籍、道具類を点検整理し、円滑に業務を進められるよう整えた。

開発に伴う埋蔵文化財調査件数、届出件数が増加していること、また電子申請での書類における標準化ができていないことから業務量が増加している。

6年度も開発に伴う発掘届の手続きを円滑に行うことができた。また、旧赤崎小学校への作業場移転について資料や道具類を整理し、旧赤崎小へは必要なものを厳選して運搬することができ、みやかに整理業務を再開することができた。
既存の発掘調査成果(報告書)の電子公開については、県とのやり取りに手戻りが多く発生し業務が圧迫されたため実施できなかった。次年度の課題としたい。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)

・開発事業に伴う埋蔵文化財調査(継続)
・既存の発掘調査成果(報告書)の電子公開

・未報告資料、調査年次の古い資料等の再整理、報告

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：文化振興課

事業名	柴田氏庭園管理運営費			継続	
予算額	8,154 千円	決算額	7,792 千円	前年度決算額	10,659 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩文化財の活用の推進				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)	文化財を教育や観光等に活用できるよう管理運営する。
	(基本施策に関連する事業の概要)	管理団体委託、庭園剪定管理委託
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	庭園と建物を公開し、市内団体への貸室を実施した。 R6年度 有料入館者1,183名、無料入館者204名、貸室利用者361名、総合計1,748名。 また、柴田氏庭園保全整備委員会を1回開催した。(令和7年3月28日書面開催)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)	見学者への公開に加え、貸室利用者の増加を図る取り組みへの着手。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)	敦賀市観光Instagramへ季節感のある写真を用いた記事掲載。英語版解説パンフレットの製作。市内の生け花団体による甘棠館全室を用いた大型イベントへの協力
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	・管理委託団体から、委託料の設計に貸室等に関する人件費不足の要望があった。 ・入館者数、貸室利用件数が減少傾向にあり、リピーターを獲得できていない。
	(総合評価)	市内団体によるコンサートや生け花展は好評を博しており、実施に際してのノウハウや管理の実績を積むことができた。生け花などは同様の団体が市内にあり、開催実績をアピールしていきたい。

今後の方向	①継続	
	すぐに取り組む事項(次年度から)	貸室利用者の増加を図るため、マニュアルや広報方法についての取り組みへの着手。
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)	地域、市民による積極的な活用と、リピーターの獲得。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：文化振興課

事業名	文化財広報普及事業費			継続	
予算額	891 千円	決算額	890 千円	前年度決算額	283 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩文化財の活用の推進				
第8次総合計画	3 地域経済⑥選ばれる観光、稼ぐ観光プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)	文化財保護活動への意識向上及び広報普及
	(基本施策に関連する事業の概要)	文化財標示板の設置・更新 文化財パンフレットの製作・増刷
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	文化財標示板 (取替2件 新設1件) ・玄蕃尾城跡表示板取替、色浜の産小屋表示板取替修繕 ・眼鏡橋文化財標示看板新設 文化財パンフレット増刷1件 5,000部

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)	文化財標示板、案内板の更新(継続) 文化財情報(パンフレット・HP等掲載のもの)を最新のものに更新する。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)	北陸新幹線敦賀開業により、より多くの目に触れるものを優先して修繕等に着手した。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	経年により取替修繕が必要な看板が増加している。また、調査や整備が進み掲載している情報が古くなっているものが出てきている。 資材費等が高騰しており、事業に必要な費用が増加している。
	(総合評価)	文化財の広報普及は、パンフレット、文化財解説看板設置などあるが、今年度は市内でも特に訪問者の多い史跡1件、また地元により修繕を行った有形民俗文化財1件の表示板について取替修繕を行った。また、令和6年2月14日に新指定された眼鏡橋の表示板を新設した。 令和7年度からの機構改革によるパンフレット内容変更に対応するため、文化財パンフレットの改訂版を増刷することができた。

今後の方向	①継続	
	すぐに取り組む事項(次年度から)	文化財標示板、案内板の更新(継続) 文化財情報(パンフレット・HP等掲載のもの)を最新のものに更新する。
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)	文化財の保存活用に係る市民意識醸成のための新たな普及活動の検討

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：文化振興課

事業名	史跡武田耕雲齋等墓活用整備事業費		継続		
予算額	36,507 千円	決算額	30,554 千円	前年度決算額	57,998 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩文化財の活用の推進				
第8次総合計画	3 地域経済⑥選ばれる観光、稼ぐ観光プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	(基本施策に関連する事業の概要)
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)

文化財を教育や観光等に活用できるよう、修復整備を進める。

- ・駐車場整備工事の実施
- ・史跡内外の支障木、枯木伐採、剪定の実施
- ・石灯笼等石造物保存処理、補強等整備

- ・駐車場、史跡内支障木、石造物補強等整備
- ・整備記念式典開催(令和6年10月10日)
- ・市民向け現地解説会開催(令和6年10月12日 参加者 約60名)
- ・史跡武田耕雲齋等墓保存整備委員会開催2回(令和6年8月30日、令和7年3月14日)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	(総合評価)

10月10日を中心に「水戸烈士ウィーク」として見学会や広報を固め、市民が史跡に親しむ機会を創出する。

敦賀市立博物館の協力により「水戸天狗党特集展示」を期間中に開催した。また、10月12日の現地解説会は10時、11時の2回開催とし、市民の参加機会の増加に努めた。

市主催の見学会以外での、観光客の鯉蔵内部見学要望があった。解説はパンフレットなど紙製で持ち帰られるものの方がよいとの委員意見を受けた。

整備を令和6年度中に完了し、公開することができた。
旧鯉蔵の内部見学については、観光ボランティアガイドつるがに申し込む形での運用を開始し、年度内で4回66名の見学を得ている。
ガイドンス施設の解説板に加え、手に取れる解説パンフレットを史跡と旧鯉蔵の2種類制作した。
これらのように、課題、問題点を解消した形で令和6年10月11日より運用できるようになった。

今後の方向	④縮小
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)

10月10日を中心に「水戸烈士ウィーク」として見学会や広報を固め、市民が史跡に親しむ機会を創出する。

北前船、水戸天狗党のストーリーの拠点として、市内周遊観光に組み込む。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：文化振興課

事業名	西福寺文化財保存修理事業費補助金		継続		
予算額	46,580 千円	決算額	46,580 千円	前年度決算額	47,317 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩文化財の活用の推進				
第8次総合計画	3 地域経済⑥選ばれる観光、稼ぐ観光プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)	西福寺が所有する各文化財について将来的な保存と活用を図るため、保存修理の支援を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)	宗教法人西福寺に補助金を交付した。また、国・県への補助金申請の支援を行った。所有者と工事業者との定例連絡会議(月1回)に参加し、工事の進捗等の情報共有を行った。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	西福寺文化財保存修理事業費補助金の交付 46,456千円 令和6年度工事概要 ・御影堂仮設覆屋の建設 ・御影堂半解体工事 ・修理現場見学会の開催()

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)	・自己資金調達支援(継続) ・修理現場公開、情報発信の実施
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)	所有者、県と共催した修理現場見学会を実施するにあたり、オンラインでの日時指定予約フォームの設置や回覧板等による周知を取り入れた結果、見学受付をスムーズに実施することができた。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	御影堂の解体調査に際して、文書や位牌など建物以外の周辺の史資料の確認も必要になってきていることから、市としても工事監理者と連携して調査を推進していく必要が
	(総合評価)	御影堂修理工事の進捗は良好で、施工・監理の状況についても月1回の定例会議への参加を通して随時確認することができている。 資金面では、所有者の自己負担金の一部について寄附控除に係る特例の財務省指定を受けた分全額の寄附受付が無事完了した。 さらに本事業発となる修理現場見学会を所有者・県と共催で実施した。市民からの注目度も高く、一般向け見学会は受付から1週間で定員に達するなど極めて盛況であった。当市で最大の修理事業である本事業を契機に多くの市民に文化財の保存活用に触れる機会が提供できるよう引き続き情報公開に努めたい。

今後の方向	①継続	
	すぐに取り組む事項(次年度から)	・自己資金調達支援(継続) ・史資料調査への協力
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)	庫裡・玄関の工事着手に向けた準備

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：文化振興課

事業名	文化財センター整備事業費		新規		
予算額	19,345 千円	決算額	0 千円	前年度決算額	0 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩文化財の活用の推進				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的) 埋蔵文化財と歴史、民俗文化財調査の拠点施設として文化財センターを整備する。 文化財の調査保存から研究、広報普及、成果発信までを、市民と協働で行うことを目標とし、市民それぞれが敦賀の魅力を発信できるような、魅力ある文化を育むまちを目指す。
	(基本施策に関連する事業の概要) 令和7年度中に文化財センターの実施設計を完了し、令和8年度中の建設工事着工、令和10年度中開館を目指す。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など) 令和7年1月20日に株式会社木下設計と契約し、実施設計を進めている。

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容) —
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など) 文化財センターの目的や方針を広く広報するため、「文化財センター基本構想、基本設計」を令和7年1月20日付でHPに公開した。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など) 敷地が隣接する新学校給食センターと、運用時の来客動線などについて調整が必要。
	(総合評価) 令和10年度中の運用開始に向け、必要な契約や調整、協議を進めることができている。

今後の方向	③拡大
	すぐに取り組む事項(次年度から) 実施設計の実施(令和7年12月まで)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間) 令和6年度末の第8次総合計画改定により、位置づけが「4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト」へ変更となり、市民が楽しく敦賀やその文化財を学び、発信するための中核施設として整備していくこととなったため、それに必要な設備を設計に盛り込み、またソフト事業も検討していく。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：博物館

事業名	調査研究費		継続	
予算額	526 千円	決算額	399 千円	前年度決算額 403 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩文化財の活用の推進			
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト			

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的) 敦賀の歴史や文化財についての調査研究を行い、資料の収集や保存、展示、教育普及活動等基本的な博物館活動に活かすための基礎資料や知見の構築・蓄積を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要) これまで未調査の仏像、美術資料、新発見の古文書など市内外の文化財について調査・記録を行った。また研究成果として紀要を発刊した。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など) ・市内文化財調査(仏像、仏画、古文書、郷土出身作家の美術資料) ・文献調査 ・文書調査、解説

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容) 令和7年度の特別展および企画展にむけた資料の発掘、調査。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など) 文献記録などを精査して文化財の情報を集めたほか、積極的に現地で実際の文化財を調査した。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など) 新幹線開業に合わせた企画展やイベント運営の負担が大きく、調査研究を進めることが困難だった。
	(総合評価) 業務過多な中も、現地への調査を実施することで新たな文化財を発掘し、次の展示や研究・文化財指定に繋げることができた。更なる研究の充実に努め、そのより有効な活用につなげられる仕組みを検討したい。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から) 令和8年度以降の特別展および企画展にむけた資料の発掘、調査。
	中長期的な検討課題(3～5年の期間) 調査研究の蓄積を反映した資料データの整理及びフォーマット整備。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：博物館

事業名	館藏品購入費		継続	
予算額	1070 千円	決算額	1,070 千円	前年度決算額 300 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩文化財の活用の推進			
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト			

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	博物館の調査事業及び展示、教育普及等に活用でき、かつ博物館で保存すべき郷土縁の資料を購入する。
	(基本施策に関連する事業の概要)
博物館の調査事業及び展示、教育普及等に活用できる資料を購入した。	
(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	
・内海吉堂筆「大瀑布図」 一幅 ・内海吉堂筆「鷹室・清月孺人像」 双幅 ・氣比神宮関係文書 8点	

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	博物館として保存すべき資料を収集し、充実を図る。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	郷土ゆかりの画家の力作と新出資料を購入した。また、氣比神宮に関する文書を購入した。郷土にとって貴重な美術資料・歴史資料を収集できた。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
流出の恐れがある郷土資料が出てきたため緊急で購入したものがあつた。予算が限られている中、金額の大きい貴重資料が出てきた場合に流出を防ぐことができるか課題がある。	
(総合評価)	
郷土の歴史や文化に資する資料を購入することができ、今後の博物館活動の充実につなげることができた。貴重資料がいつ流れてくるか予測ができない中での対応になるが、郷土資料の流出や廃棄を防ぐために、高価な資料であっても収集に努めたい。	

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	博物館として保存すべき資料を収集し、充実を図る。
中長期的な検討課題(3～5年の期間)	
歳入の増加に努めて極力資料購入の財源に充てる。博物館のコレクションの中核を為し得るすぐれた文化財を調査し、購入を目指す。	

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：博物館

事業名	館藏品記録整理事業費			継続	
予算額	5,501 千円	決算額	5,496 千円	前年度決算額	489 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩文化財の活用の推進				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	館蔵資料のデジタルデータ化を進め、インターネットでの公開を図る。民具資料の今後の保存と活用のため、全体を把握するための整理を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)
事業概要	文化財を広く活用できるよう、館蔵品のデジタル撮影を行った。また、一般も利用できる収藏品データベースに情報を登録し公開した。民具資料の目録化を進めた。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)
	・文書、絵図等資料を撮影し、アーカイブの充実を進めた。 取り込みデータ(カット)数 歴史資料200カット以上、美術資料100カット以上 ・旧葉原小学校収蔵の民具資料約2,000点の目録化、現状記録作業

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	データベース分類方法の検討と資料整理計画を立てること。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	本事業によって蓄積された画像データや収藏品のデータ更新を随時行い、データベースを充実させた。また、膨大な数の資料の分類方法を見直し、次年度以降順次データベースに反映させていく準備をした。民具資料の整理計画を進めるため、目録化を進めた。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	当館は膨大な数の資料を所蔵しており内容も多岐にわたるため、資料分類は一筋縄でないが、丁寧に検討し分類法の更新に取り組んでいく必要がある。
	(総合評価)
	歴史資料のデータ化と館蔵美術資料のデジタルデータ化を進めることができた。また、前年度に引き続き収藏品の整理とデータベースへの情報アップロードを進めることができた。次年度以降、資料分類を見直し、実際にデータベースに反映させていく作業を進めたい。民具資料は膨大な数があるが、今後の活用のため整理作業を進めていきたい。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	データベースの整理と更新作業
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
	データ化した資料の整理体系を見直し、新しいシステムによる総合的なデータベースを充実させる。民具資料の活用のための整理計画を立てる。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：博物館

事業名	「白木のあゆみ」保存活用事業費		継続	
予算額	330 千円	決算額	330 千円	前年度決算額 460 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩文化財の活用の推進			
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト			

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)	白木地区の歴史的記録書である『白木のあゆみ』を公開し広く活用を図る。
	(基本施策に関連する事業の概要)	今後の刊行継続のため、章題等を整理しデータ化する。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	・『白木のあゆみ』地誌部分の内容のデータ整理

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)	全記事のタイトル・出典などのデータを整理し、今後の出版の方針を立てる。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)	記事の重複や出典についても可能な範囲で抽出した。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	全体的に別資料の転載記事も多く、内容の重複も見られる。今後は内容の分野ごとの整理が必要である。
	(総合評価)	地域の貴重な記録を発行し、地域研究の素材として利用の幅を広げるための基礎となる、記事内容の分類と精査を進めることができた。

今後の方向	①継続	
	すぐに取り組む事項(次年度から)	『白木のあゆみ』のテキストデータ化
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)	『白木のあゆみ』のデジタルアーカイブ化と継続的な出版

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：博物館

事業名	博物館管理運営費		継続		
予算額	19,982 千円	決算額	18,364 千円	前年度決算額	20,856 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩文化財の活用の推進				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	重要文化財・旧大和田銀行本店本館の維持管理。
	(基本施策に関連する事業の概要)
	故障した空調機械を含む施設維持のための修繕を行った。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)
	清掃、空調、消防、エレベータ機器点検、虫害予防、電灯交換、施設や機器の修繕。

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	文化財建物である本館を含め、計画的に管理及び修繕を行う。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	文化財の維持保存と、来館者が安全快適かつ文化財建物の雰囲気を感じられることを目指し、適正な維持管理を行った。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
と評価	虫害対策として館内燻蒸を年2回行っていたが、薬剤の製造が終了したため次年度からIPMに以降する。資料の保護と館内環境の維持について検討が必要。
	(総合評価)
業者委託によって館内清掃や設備点検を行っている。施設は修復工事及びリニューアルオープンから10年を迎えており、館内設備の交換・修繕箇所が出てきている。また、燻蒸業務が廃止となりIPMに移行することから、今後はより適正な施設管理・修繕計画を考えていく必要がある。	

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	文化財建物である本館を含め、計画的に管理及び修繕を行う。
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
重要文化財建物の健全な保存のための保存管理計画の改定及び全体的な修繕計画の作成。	

基本方針（４） スポーツの振興及び推進

(様式1)

基本施策No. (様式2)	関連する予算事業名 (様式3)	担当課・施設
⑰	野球フェスティバル開催費	スポーツ振興課
	県民スポーツ祭参加費補助金	スポーツ振興課
	スポーツレベルアップ事業費	スポーツ振興課
	スポーツ少年団補助金	スポーツ振興課
	スポーツ協会補助金	スポーツ振興課
⑱	総合型地域スポーツ活動推進事業費	スポーツ振興課
	スポーツ推進委員活動費	スポーツ振興課
	スポーツ振興補助金	スポーツ振興課
⑲	敦賀マラソン大会開催費	スポーツ振興課
	国内スポーツ交流事業費	スポーツ振興課
	市民スポーツ祭開催費	スポーツ振興課
⑳	学校体育施設開放事業費	スポーツ振興課
	体育館管理運営費	スポーツ振興課
	野球場管理運営費	スポーツ振興課
	花城テニスコート管理運営費	スポーツ振興課
	プール管理運営費	スポーツ振興課
	東浦体育館管理運営費	スポーツ振興課
	粟野スポーツセンター管理運営費	スポーツ振興課
	金山体育館管理運営費	スポーツ振興課
	中郷体育館管理運営費	スポーツ振興課
	きらめきスタジアム運営事業費	スポーツ振興課
	武道館運営事業費	スポーツ振興課
	運動公園テニスコート改修事業費	総合運動公園
	運動公園管理運営費	総合運動公園
	運動公園プール管理運営費	総合運動公園
運動公園プール改修事業費	総合運動公園	

令和6年度 自己点検・評価調書 【振興基本計画:基本方針】

主担当課: スポーツ振興課

基本方針	(4)スポーツの振興及び推進
------	----------------

計画目標	実績					目標
	R3	R4	R5	R6	R7	R7
地区体育館等のスポーツ施設の利用者を増加させます。 基本施策 17・18・19・20	112,924人	123,304人	148,147人	158,899人		175,000人
総合運動公園の利用者を増加させます。 基本施策 17・18・19・20	137,025人	164,780人	164,097人	184,981人		205,000人

基本施策	17 競技レベル向上に向けたスポーツの振興 18 生きがいと健康づくりとしてのスポーツの振興 19 人のつながりを再生するスポーツ交流の推進 20 スポーツ施設の整備
------	--

令和6年度 自己点検・評価調書 【振興基本計画:基本施策】

基本施策	⑰競技レベル向上に向けたスポーツの振興
担当課(施設)	スポーツ振興課

計画の 分析と評価	主な実施内容とその評価
	<p>①スポーツレベルアップ事業として、スポーツのレベルアップを図るため、ジュニア層の育成強化や競技力の底上げ、また指導者の育成に対する支援を行った。令和6年度の全国大会に出場した団体・個人数や、優秀選手表彰対象者数は令和5年度よりも増加したことから、本市スポーツのレベルアップに一定の成果を得ることが出来たと考える。</p> <p>②スポーツ少年団補助事業として、スポーツ活動を通じ、地域社会の中で青少年の健全育成を行うスポーツ少年団に対し、活動PRや指導者の登録に係る費用助成等の支援を行い、前年度よりも団員数は増加した。 (R6年度 登録数 33団体 1046名 内訳:団員836名、指導者210名(市のみ登録含む)) (R5年度 登録数 33団体 998名 内訳:団員793名、指導者205名(市のみ登録含む))</p> <p>③スポーツ協会補助事業として、競技力の向上と市民総スポーツを目指して活動する敦賀市スポーツ協会に対して、各競技協会の競技力向上事業と社会体育振興事業への支援を行った。結果として、個人優秀選手表彰対象者が前年度よりも増加するなど、スポーツに対する意識付けや競技力の向上に繋げることが出来た。</p> <p>④・敦賀野球フェスティバルは昨年に引き続き開催することができ、各チームの技術向上、指導者の連携を図るとともに、市民の野球に対する意識を高めることができた。</p>
	計画の実施や目標達成に向けた今後の課題
	<p>①②③④ 近年、日本を代表する選手達が世界で活躍していることが報道などにおいて取り上げられ、スポーツに対する機運が高まっていることから、特にジュニア層のスポーツ人口拡大、育成強化に繋げる取り組みが必要である。また、全国大会等で活躍できる選手の育成のため、選手はもとより指導者の競技力、指導力の底上げが必要である。 また、全国的にもスポーツ少年団の活動が縮小傾向にある中で、単位団数の維持や新規団員の確保、競技団体等との連携等、様々な取り組みについて検討が必要。</p>
	課題に対する今後の方向性
<p>①②③④ 国体をはじめとする各種全国大会で活躍できる選手の育成を目指し、個人や団体を奨励することにより、スポーツ振興の発展と競技力の向上を図る。また、スポーツ少年団等のPR活動や新規団員確保、指導者の活動継続等に関する取り組みへの支援を検討するなど、ジュニア層のスポーツ人口拡大や指導者の資質向上に繋げる。</p>	

自己評価区分

A : 前進

B : 維持(前進もしくは後退について判断が難しいものや判断ができないものを含む)

C : 後退

自己評価

B

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	野球フェスティバル開催費		継続		
予算額	650 千円	決算額	590 千円	前年度決算額	600 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩競技レベル向上に向けたスポーツの振興				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)	野球を通じた小中高生選手の技術力向上と、野球に対する意識向上を図る。
	(基本施策に関連する事業の概要)	「野球フェスティバル」として、市長旗高校野球大会と小中学生野球大会を同時に開催し、小中高一貫指導体制を確立するとともに球都つるがの名声を野球ファンにアピールした。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	嶺南地区の高校5チームと二州地区の中学校5チーム、学童10チームが参加して開催。開催にあたっては、軟式野球連盟主催の小・中学生の連盟杯との調整を図るため、市主催の市長旗高校野球大会の運営を軟式野球連盟に委託、スムーズな運営が図られた。

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)	—
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)	連盟や参加チーム相互の連携・協力により、スムーズな大会運営が出来た。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	
	(総合評価)	野球フェスティバルは小・中・高校生が一堂に会する大会であり、全国的に稀有で貴重なイベントであり、連盟、各チームの協力によりスムーズな運営ができた。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
	野球フェスティバルとしては、将来、還暦野球まで範囲を拡大し、多世代交流を通じた野球競技の普及発展、技術向上を目指す。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	県民スポーツ祭参加費補助金		継続		
予算額	2,300 千円	決算額	1,963 千円	前年度決算額	1,315 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩競技レベル向上に向けたスポーツの振興				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)	競技者の、市代表としての意識付けを行うとともに、競技力の向上を図る。
	(基本施策に関連する事業の概要)	県民スポーツ祭市町対抗の部の出場選手を派遣する敦賀市スポーツ協会への支援を行った。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	令和6年6月9日から10月20日までの間、選手・役員等 計432名を派遣 1位 8競技(9種目)、2位 6競技(6種目)、3位 6競技(7種目)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)	—
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)	県民スポーツ祭の交流部門への参加促進のため、関係団体との連携によりニュースポーツの普及振興を行った。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	
	(総合評価)	22種目で入賞を果たし(昨年度:20種目)、1位を獲得した種目は前年度の5種目から9種目、2位、3位については13種目が入賞し、全体的に選手の競技力の底上げ、向上が着実に図られていると考えられる。 一方で、選手が揃わず不参加となった競技もあった(2競技:なぎなた、柔道)。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	スポーツレベルアップ事業費			継続	
予算額	5,562 千円	決算額	5,468 千円	前年度決算額	4,726 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑦競技レベル向上に向けたスポーツの振興				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	(基本施策に関連する事業の概要)
	(具体的な取り組みの状況…実施年月、参加者数、購入量など)

各種全国大会等で活躍できる選手の育成を目指し、個人や団体を奨励し、スポーツ振興の発展と競技力の向上を図る。

本市のスポーツのレベルアップを図るため、ジュニア層の強化及び指導者の育成、競技者の競技力の底上げを行った。

全国大会出場選手激励事業…団体 30団体(R5:25団体) 個人 175名(R5:115名)
 優秀選手市長表彰事業…団体 1団体、個人 5名(R5:個人2名)
 強化指定種目補助事業…6団体(R5:7団体)
 優秀指導者招聘事業…令和7年2月14日(金)～16日(日)
 ・スポーツリーダーセミナー…延べ参加者 35名(R5:31名)
 ・スポーツコンディショニングセミナー 延べ参加者 225名(R5:203名)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	(総合評価)

世界大会で優勝した選手の表彰のため、要綱を改正し、敦賀市特別優秀選手賞を授与した。また、セミナー開催にあたり、講義内容等について、より関心を集めることが出来るよう、事前に講師と協議を行った。また、全国大会出場の激励幕を、市役所に2カ所設置し、競技者のモチベーション向上に繋げた。

対面によるセミナーを開催したが、今後オンラインによるセミナーへの参加等も視野に入れ、セミナーへの参加しやすい環境を整えていくことも検討が必要。

令和5年度と比較し、全国大会に出場した団体個人数は増加し、また、年間を通じて安定して市内選手が全国大会に出場していることから、本市スポーツの競技レベルアップに一定の成果を得ることが出来た。昨年に引き続き、スポーツリーダーセミナー及びコンディショニングセミナーを対面方式で開催できたが、オンライン参加可能など、事業実施の方向性については、今後も検討を行う必要がある。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)

競技者及び指導者の競技力及び資質の底上げを図り、全体的なレベル差を解消する必要がある。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	スポーツ少年団補助金		継続		
予算額	1,700 千円	決算額	1,700 千円	前年度決算額	1,800 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩競技レベル向上に向けたスポーツの振興				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	児童生徒の運動能力の底上げを目的とし、子どもたちのスポーツ振興の発展と競技力の向上を図る。
	(基本施策に関連する事業の概要)
事業概要	スポーツ活動を通じて団員の体力向上に努め、地域社会の中で青少年健全育成を行うスポーツ少年団に対して支援を行った。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など) ・スポーツ少年団に登録 33団、836名(R5:33団、793名) 参考:登録指導者等 210名(R5:205名) ・12月から1月にかけて単位団ごとに実施された体力テスト参加状況 24団 532名 が参加 (R5:26団 502名)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	—
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	広報つるがでのスポーツ少年団を紹介する記事の掲載や体育館等に団員募集ポスター等の掲示を行い、スポーツ少年団活動のPRを行った。また、指導者の育成・支援策として、指導者の資格取得に必要な自己負担費用の助成を行った。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
少子化や、子どもたちのスポーツの取組みの多様化等の問題により、全国的にスポーツ少年団活動自体が減少しているなか、新規団員数の獲得や既存の単位団の活動継続のため、少年団活動のPRにとどまらない様々な取組みについて検討が必要。	
(総合評価)	広報つるがでのスポーツ少年団を紹介する記事の掲載や体育館等に団員募集ポスター等の掲示、また指導者の育成・支援策として、令和4年度より実施している指導者の資格取得に必要な自己負担費用の助成を行うなど、スポーツ少年団の活動支援を行い、前年度と比較し単位団数は同数で維持し、団員数については増加した。全国的に単位団数や団員数が減少傾向にある中で、団体数の維持及び新たな団員の確保に繋がる活動や、競技団体等との連携等、様々な取組みに対する支援や助言を行う必要がある。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
	継続的な指導可能な有資格指導者の育成及び資質向上、また学校体育と社会体育との連携による一貫指導体制の確立と体力・競技力の向上を図る。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	スポーツ協会補助金		継続		
予算額	6,650 千円	決算額	6,650 千円	前年度決算額	6,650 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩競技レベル向上に向けたスポーツの振興				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的) スポーツ振興の発展と競技力の向上を図る。
	(基本施策に関連する事業の概要) 競技力の向上と市民総スポーツを目指して活動する敦賀市スポーツ協会に対し、競技力向上事業や社会体育振興事業への支援を行った。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など) 敦賀市スポーツ協会加盟団体数 41団体(競技団体31、地区体協9、中体連1) スポーツ協会優秀選手等表彰事業 ・スポーツ功労者 7名(R5:8名) ・優秀選手等表彰 36団体、個人94名(R5:31団体、個人 112名)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容) —
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など) 市内スポーツ施設の年間利用計画について、円滑に活動場所の確保が出来るよう、利用団体間において利用日程の調整を行った。 また、加盟団体において競技力の向上や競技振興、また地域スポーツの振興を行う事業に対し、スポーツ強化振興補助のため補助金を支出した。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	(総合評価) 市民スポーツ祭をはじめ、各種競技における大会の開催や、競技団体の活動がコロナ禍前に戻りつつあるなか、団体の活動場所の確保のための利用機会の調整や団体間における相互交流、ジュニア層の育成等に取り組み、スポーツに対する更なる意識づけ、競技力の向上に繋げることができた。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間) 各競技団体等が継続して競技の普及及び競技力向上事業に取り組むことが出来るよう、支援を継続して行う。

令和6年度 自己点検・評価調書 【振興基本計画:基本施策】

基本施策	⑱生きがいと健康づくりとしてのスポーツの振興
担当課(施設)	スポーツ振興課

計画の 分析と評価	主な実施内容とその評価
	<p>①総合型地域スポーツ活動として、生涯スポーツの推進と、市民の健康・体力増進及び相互の親睦交流促進を目的に、多くの市民がスポーツに親しむことのできる基盤づくりを行うため、各種スポーツ教室を実施した。 (R6実績 13教室 延べ1,549名参加) (R5実績 13教室 延べ1,669名参加)</p> <p>②スポーツ推進委員活動として、本市スポーツ振興のため、市内地区のスポーツ教室等諸事業やスポーツ活動の企画・運営及び指導・助言を行うとともに、委員個人のスキルアップのためニュースポーツの実技研修等を行い、教室や出前講座の質向上を図った。結果として、前年度を上回る出前講座の実績を得、市民のスポーツへの意識向上や普及振興に成果があったと考える。(出前講座延べ96名出勤、参加者数497人)。</p> <p>③スポーツ振興補助事業として、市民の健康増進及びスポーツ振興を目的とし、各種大会の開催等に対する補助を行った。また、昨年は悪天候のため中止した野坂山市民登山を実施することができたが、参加者数はコロナ禍よりも減少していた。</p>
	計画の実施や目標達成に向けた今後の課題
	<p>①②③ スポーツに取り組む機会が少ない若者がスポーツに参加しやすい機会の拡充、また健康寿命の延伸のため、高齢者の体力づくりの支援など、生涯にわたる豊かなスポーツライフが実現できる環境づくりや、市民ニーズに対応したスポーツ活動を推進することが必要である。</p>
	課題に対する今後の方向性
<p>①②③ 生涯スポーツへの関心や意識を高め、スポーツ人口の裾野を拡大するため、各種スポーツ教室や講座内容の一層の充実を図る。 若者世代におけるスポーツ人口の拡大や、高齢者世代への体力づくり活動への支援等、誰もが気軽に取り組めるニュースポーツや参加しやすい環境づくりを行い、スポーツの普及を図る。</p>	

自己評価区分

A : 前進

B : 維持(前進もしくは後退について判断が難しいものや判断ができないものを含む)

C : 後退

自己評価

B

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	総合型地域スポーツ活動推進事業費		継続		
予算額	1,360 千円	決算額	1,272 千円	前年度決算額	1,190 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩生きがいと健康づくりとしてのスポーツの振興				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	生涯にわたり豊かなスポーツライフが実現できる環境づくりや、市民が参加しやすいスポーツの普及を図る。
	(基本施策に関連する事業の概要)
事業概要	総合型地域スポーツクラブ活動を推進し、市民の健康・体力増進及び相互の親睦交流促進のため、青少年・中高年・一般スポーツ活動の普及振興を行った。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)
	スポーツ教室開催(エクササイズ、アクアエクササイズ、ニュースポーツ) 13教室 延1,549名参加 (R5:13教室 延1,669名参加) ニュースポーツ体験王国 令和6年7月7日(日) 112名参加 (令和5年度 開催なし)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	—
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	各教室について定数以上の申込があった場合、できる限り参加していただけるように講師と協議を行った。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	ニュースポーツ教室の参加者が昨年度と比較すると減少しているため、ニュースポーツ教室の参加者を増加させる取組について協議が必要。
	(総合評価)
	1教室当たりの実施回数が減少したことにより、エクササイズ・アクアエクササイズ、ニュースポーツ教室においては延べ参加者数が減少しているもののほとんどの教室が定員人数に達しており、市民の健康・体力増進に対して一定の成果を得ることが出来たと考える。 市内の総合型地域スポーツクラブが北スポーツクラブの他1団体の設立があるが、本市の補助金の申請には至っておらず、団体等への働きかけ等、本市の支援の方向性について検討が必要

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
	市民の健康増進やスポーツ普及振興のため、スポーツ教室を継続して実施し、内容の充実化や効率化を図る。また、新たな総合型スポーツクラブ設立に向けて、地区や競技団体等に誘導を図る。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	スポーツ推進委員活動費		継続		
予算額	1,953 千円	決算額	1,717 千円	前年度決算額	1,434 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩生きがいと健康づくりとしてのスポーツの振興				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	生涯スポーツへの関心や意識を高め、スポーツ人口の裾野拡大を図る。
	(基本施策に関連する事業の概要)
	地域でのスポーツ活動やニュースポーツの普及・振興をはじめ、スポーツ教室の指導、各種大会の運営補助等を行った。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)
	・出前講座 15回 延べ出勤人数96名(延べ参加者数 497名) ・ニュースポーツの実技研修会(キンボール、カローリング等) ・市民スティックリング大会 令和7年3月9日(日) 11人出勤(参加者数105名) ・北陸研修会(新潟県村上市) 9名出席 ・全国研究協議会宮崎大会 4名出席

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	—
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	敦賀市スポーツ推進委員協議会の自主事業として、モルック交流会を開催していただいたことにより、ニュースポーツの普及を行うことができた。また、委員個人のスキル向上のためニュースポーツの実技研修会等を行い、教室や出前講座の質向上を図った。その結果として、参加者数は前年度を上回ることができなかったが、出前講座の実施回数は前年度を上回ることが出来た(前年度出前講座出勤実績:13回、延べ74人出勤し参加者は511人)
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	出前講座について、現在は依頼があった場合、全て対応できているが、平日の日中に依頼があった場合、出勤できる委員が少ないため、これから件数が更に増えた場合に対応できるか事前に検討する必要があると考える。
	(総合評価)
	例年開催しているニュースポーツ教室や出前講座の質向上を図り、前年度を上回る教室、出前講座の実績があったことで、市民のスポーツへの意識向上や普及振興に成果を得ることが出来たと考える。一方で、平日の日中に出勤講座が多くなった場合、全てに対応できない可能性があることから、事前に検討を進めておく必要があると考える。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
	ニュースポーツの更なる普及振興やスポーツ推進委員の資質向上を図る。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	スポーツ振興補助金		継続		
予算額	270 千円	決算額	270 千円	前年度決算額	228 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑩生きがいと健康づくりとしてのスポーツの振興				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)	健康寿命の延伸や生きがいづくりと健康づくりとして、生涯にわたり豊かなスポーツライフが実現できる環境づくりを行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)	市民の健康増進を目的として、市民登山への支援を行った。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度野坂山市民登山振興補助金 敦賀三山登山道補修事業補助金

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)	—
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)	登山道の補修や倒木の処理等を行っていただくことにより、登山者により安全に登山ができるようになった。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	
	(総合評価)	コロナ禍及び悪天候により4年間開催できていなかった野坂山市民登山を無事開催することができた。また、補助を通じて健康増進やスポーツの振興に繋げることができました。さらに、野坂山をはじめ敦賀三山の登山道補修を行っていただくことにより、年間を通じて登山者の安全が確保された。

今後の方向	①継続
	<p>すぐに取り組む事項(次年度から)</p> <p>野坂山市民登山振興補助金について、支払先の「野坂山登山振興会」が高齢化のため解散する方向性であるため補助金の支払先の調整や、登山道整備を委託にするなど検討が必要。</p> <p>中長期的な検討課題(3～5年の期間)</p>

令和6年度 自己点検・評価調書 【振興基本計画:基本施策】

基本施策	⑱人のつながりを再生するスポーツ交流の推進
担当課(施設)	スポーツ振興課

計画の 分析と評価	主な実施内容とその評価
	<p>①敦賀マラソン大会開催費として、市民の健康増進及びマラソン競技の普及のため、敦賀マラソン大会を開催した。昨年度ハーフコースの参加者で最初から歩くようなペースで走られているランナーがいたので交通規制解除予定時間になっても交通規制が解除できない事案があったことから、今年度は所定の時間までに所定の場所を通過しないと打ち切りにする関門を5か所設定し、予定通りの交通規制解除ができるようになった。</p> <p>②国内スポーツ交流事業費として、スポーツを通じた市民及び青少年の交流促進のため、国内の姉妹都市・友好都市等との交流事業を行った競技団体等に対し補助を行った。</p> <p>③市民スポーツ祭開催費として、市民の健康と体力増進、市民相互の親睦交流促進を目的として市民スポーツ祭を開催し、特にスポーツを通して市民相互の交流促進ができた。人数不足により地区単位でチームが組めないものについては、合同チームの参加を認める対応をしているが、一部の競技において開催中止となった競技があったものもあり、参加者数は減少傾向している。</p>
	計画の実施や目標達成に向けた今後の課題
	<p>①敦賀マラソン大会については、コロナ禍以前の参加者数を戻すためにもハーフの部の参加者数を増加させる必要がある。</p> <p>③市民スポーツ祭については、人数不足により地区単位でチームが組めないものについては、合同チームの参加を認める対応をしているが、一部の競技において開催中止となった競技があったものもあり、参加者数は減少傾向している。また、参加者の減少や様々な課題解消のため、今後の事業の方向性やあり方について検討する必要がある。</p>
	課題に対する今後の方向性
	<p>①敦賀マラソン大会においては、減少した参加者の確保に対する取り組みの方法として、伸びしろのあるハーフに対する対策や、ハーフ開催にあたっての課題解消対策の関係者等との協議等、今後の敦賀マラソン大会の方向性について引き続き検討を行う。</p> <p>③市民スポーツ祭について、地域社会における一体感の醸成と活力向上を推進するため、スポーツを通じた人や地域とのつながりや交流を深め、スポーツを支える団体や組織等の基盤を強化する。また、地域住民がスポーツ活動等に参加しやすい環境づくりのため、スポーツ協会や関係団体とともに様々な課題に取り組む。</p>

自己評価区分

A : 前進

B : 維持(前進もしくは後退について判断が難しいものや判断ができないものを含む)

C : 後退

自己評価

B

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	敦賀マラソン大会開催費			継続	
予算額	17,139 千円	決算額	15,083 千円	前年度決算額	15,415 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑱人のつながりを再生するスポーツ交流の推進				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツへの関心を高めるため、年齢、性別、志向、障がいの有無にかかわらず、生涯にわたりスポーツを楽しむことのできる環境を整える。
	(基本施策に関連する事業の概要)
	例年、10月第3日曜日に市民の健康増進及びマラソン競技普及のため、敦賀マラソン大会を開催している。
	(具体的な取り組みの状況…実施年月、参加者数、購入量など)
	開催日：令和6年10月20日(第3日曜日) 場 所：敦賀市総合運動公園ほか市内コース 参加申込者数：1,814人

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	—
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーフ種目一般男子の申込件数が多かったことから50歳以上男子の部を創設した。 ・マラソンコース沿線にある大型集客施設(きらめきみなと館、結婚式場、USA等)との連絡を綿密に行い、交通規制等についてスムーズな調整を行うことが出来た。 ・交通規制等も看板の設置や迂回路の確保等により安全な大会運営が出来た。 ・関門を5箇所設置し、予定通り交通規制解除をすることができた。 ・キッチンカーや物販ブースを会場に設置し、ランナーだけでなく付き添いの方も楽しめる会場にすることができた。 ・近隣で開催されたマラソン大会や北陸新幹線の沿線で開催されたマラソン大会に出向宣伝を行いPRができた。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者から残りの距離表示が分かりづらかったとの意見があったことからコース上に設置する距離表示を分かり易いものに変更する。 ・走路員を各スポーツ協会に依頼しているが、高齢化のためマラソン大会に協力してくれる人数が少なくなってきた。ボランティアスタッフの増加を依頼する必要があると感じた。 	
	(総合評価)
	協力団体やコース沿線の地域住民の協力の下、敦賀マラソン大会の開催ができたと考えている。更なるマラソン競技の普及と市民の健康増進を図るとともに、地域住民諸関係団体との連絡を密にしていきたい。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
	経費削減(財源の確保)や更なる参加者の確保に繋がる取り組みを検討

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	国内スポーツ交流事業費		継続		
予算額	350 千円	決算額	350 千円	前年度決算額	300 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑱人のつながりを再生するスポーツ交流の推進				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツを通し、市民及び青少年のつながりや交流を深める。
	(基本施策に関連する事業の概要)
	国内の姉妹都市・友好都市等のチームや優秀なチームと敦賀市民が、スポーツを通じ友好を深めるとともに、競技力の向上を図るために開催する交流大会への補助を行っている。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)
	・各務原市親善ソフトテニス交流試合(各務原市) 令和6年9月22日(日) 敦賀市ソフトテニス連盟 ・全国選抜少年剣道錬成大会(水戸市) 令和7年3月30日(日) 敦賀市剣道連盟 ・敦賀市長杯気比の松原招待サッカー大会 令和6年6月29日(土)・30日(日)7月7日(日) 敦賀市サッカー協会 ・近府県ソフトテニス大会 令和6年7月27日(土)・28日(日) 敦賀市ソフトテニス連盟

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	—
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	令和5年4月1日から「敦賀市国内スポーツ交流事業補助金交付要綱」の制定を行い、補助事業の内容や対象についてより明確にすることができた。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	前年度補助をした団体とは継続的に交流をすることができたが、国内の姉妹都市・友好都市等のチームやその他県外のスポーツ団体との交流大会を開催することができなかった。
	(総合評価)
	前年度から引き続き、友好都市である各務原市及び水戸市との交流を図ることができた。また、興味がある競技団体等があれば、積極的に交流事業の開催について働きかけを行っている。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
	現在交流事業を行っている各務原市、水戸市の他、令和3年11月に友好都市協定を締結した奈良県生駒市との交流について両市間で調整を図る。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	市民スポーツ祭開催費		継続		
予算額	1,800 千円	決算額	1,760 千円	前年度決算額	1,700 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑱人のつながりを再生するスポーツ交流の推進				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツを通じた健康増進や市民相互の交流促進を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)
事業概要	例年、市民の健康と体力増進、市民相互の親睦交流を深めるため市民スポーツ祭を開催している。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など) 開催日時：令和6年9月23日(月)～10月6日(日) 開催場所：敦賀市総合運動公園体育館 外 参加者数：1,243人 開催種目数：地区対抗競技 12種目 オープン競技 3種目 /公開競技 1種目

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	—
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	開催にあたって競技団体が実行委員会において競技別の開催要項等の確認や調整を行い、市民が参加しやすい環境づくりや安全な大会運営について協議した。
(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	
種目によっては参加地区数が減少するなど地域格差があり、競技ごとのルールづくりや開催種目、参加方法等について敦賀市スポーツ協会等関係者と検討が引き続き必要である。	
(総合評価)	
参加者数について昨年度と比較すると増加した。これは課題であった市民が参加しやすい環境づくりについて、柔軟に対応できたことにより参加者数の増加につながったと考えている。今後も更なる参加者の増加及び参加地区間の格差解消のため、競技ごとのルールづくりや開催種目、参加方法等について、検討を行って行きたい。	

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
	市民の健康及び体力増進、スポーツを通じた親睦交流の創出の場とするため、より多くの地区住民が参加しやすいルールづくりや参加方法等について検討

令和6年度 自己点検・評価調書 【振興基本計画:基本施策】

基本施策	⑩スポーツ施設の整備
担当課(施設)	スポーツ振興課・総合運動公園

計画の 分析と評価	主な実施内容とその評価
	<p>【スポーツ振興課・総合運動公園】</p> <p>①市民のスポーツ活動の拠点となる、市内スポーツ施設(13施設)・総合運動公園の安定的な施設運営を行うため、施設の維持管理及び整備を行った。実施にあたっては、職員や施設管理人による日常的な簡易点検や施設管理業務受託者と情報共有等を密に行うことにより、不具合発生未然防止に努め、簡易的な修繕を都度実施した。また、新型コロナが5類移行となったことにより、コロナ前の通常運営とし、さらに安全で安定的な施設として維持管理運営を行い、利用者のサービス低下の防止に努めている。</p> <p>②年間の施設利用者数は市内スポーツ施設(13施設)が158,899人(R5 148,147人)、総合運動公園が184,981人(R5 164,097人)となり、昨年度と比較し、市内スポーツ施設については、約10%の増加となり、コロナ禍から徐々に利用者数は増加傾向となってきている。増加要因としては、新型コロナが5類移行になったことにより、スポーツ活動がコロナ前に戻りつつあることや令和3年に総合運動公園内のちびっ子広場を改修し、ウェルネス広場として新たな遊具を設置したことが考えられる。</p>
	計画の実施や目標達成に向けた今後の課題
	<p>【スポーツ振興課・総合運動公園】</p> <p>①市民のスポーツ活動の拠点として、スポーツ施設の改修、整備、充実化に取り組む必要がある。</p> <p>②施設の老朽化が著しい施設もあり、今後計画的な改修を含め、スポーツ施設の効果的な活用策を検討し、利用者の利便性と安全性を図りつつ運営管理を行うことが求められている。</p>
	課題に対する今後の方向性
	<p>【スポーツ振興課・総合運動公園】</p> <p>①施設の定期的な保守点検、計画的な修繕等の実施等、安全な施設の維持管理に努め、適切な施設運営を継続して行う。</p> <p>②各施設における利用者の活動実態の把握に努め、特に老朽化が進んでいる施設等については、存続を含めた施設の方向性について検討する。</p>

自己評価区分

A : 前進

B : 維持(前進もしくは後退について判断が難しいものや判断ができないものを含む)

C : 後退

自己評価

B

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	学校体育施設開放事業費		継続	
予算額	872 千円	決算額	782 千円	前年度決算額 3,891 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑳スポーツ施設の整備			
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト			

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツ施設の維持管理・整備・充実化を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)
事業概要	気比中学校のグラウンドを夜間に開放した。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)
	4月から10月まで、気比中学校のグラウンドを夜間開放した。 ○利用者数:1,103人(R5:1,250人) 主な修繕:気比中学校ナイター設備主幹ブレーカー修繕

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	安全で安心して利用いただける施設の管理運営を継続して行う。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	日常的に、職員による施設の簡易点検(危険個所の目視点検等)を行い、軽微な修繕等は都度補修作業を行うなど、不具合発生の未然防止に努めた。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	気比中学校ナイター照明設備の主幹ブレーカーが老朽化により故障し、照明設備が使用できない期間が発生した。
	(総合評価)
	管理面において、主幹ブレーカーの故障により、一時的に施設利用が不可となったが、早急に対応(修繕)を行うことで、利用者への支障も最低限に留めることができた。 また、今後の課題として、施設利用の継続及びナイター照明設備のLED化について、検討が必要となってくる。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	安全で安心して利用いただける施設の管理運営を継続して行う。
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
	気比中学校グラウンドについて、今後、安定的な夜間開放について方向性を検討していく。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	体育館管理運営費		継続		
予算額	8,659 千円	決算額	8,383 千円	前年度決算額	5,011 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑳スポーツ施設の整備				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツ施設の維持管理・整備・充実化を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)
事業概要	安定的な施設運営のため、市立体育館の維持管理を行った。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など) 各種団体における大会等の利用の他、多くの市民が利用できるよう日程調整や施設の維持管理を行った。 ○利用者数:31,140人(R5:32,620人) 主な修繕:雨漏れ部分修繕、放送設備修繕 等

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	安全で安心して利用いただける施設の管理運営を継続して行う。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	日常的に、職員による施設の簡易点検(危険個所の目視点検等)を行い、軽微な修繕等は都度補修作業を行うなど、不具合発生の未然防止に努めた。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
当課が管理する体育館では一番古く老朽化も進んでいるが、長寿命化の対象外施設となるため、今後の管理計画について検討が必要。	
(総合評価)	前年度と比較し、利用者は約4.5%減少したが、一昨年度と比較すると19.6%増加しており、コロナ禍前の数値まで戻ってきている。年間を通じて大きな競技大会等での利用があり、市民のスポーツ活動の拠点として欠かすことの出来ない施設と考えている。 日常的な簡易点検や職員による補修対応等により、年間を通じて大きな修繕も無く安定的な施設の維持管理が出来たが、建設から50年以上経過しており、今後、計画的な施設の維持管理及び修繕についても、どこまでの規模のものを必要とするのか検討が必要である。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	安全で安心して利用いただける施設の管理運営を継続して行う。
中長期的な検討課題(3～5年の期間)	施設の老朽化が進んでおり、計画的な施設の維持管理及び修繕を実施する。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	野球場管理運営費			継続	
予算額	980 千円	決算額	763 千円	前年度決算額	1,014 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑳スポーツ施設の整備				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツ施設の維持管理・整備・充実化を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)
事業概要	老朽化した施設の安定的な施設運営のため、市営野球場の維持管理を行った。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)
	場外飛球防止のため、一部の利用を制限しながら、部活動や市民の利用に対し効率的で安定的な施設管理を行った。 ○利用者数:3,530人(R5:1,395人)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	施設の老朽化が顕著であり、今後の施設のあり方を検討する必要がある。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	施設受付業務受託者による日常的な点検、管理作業により、安全な施設管理を行った。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	外壁のブロックが老朽化により、倒壊の恐れもあることから、施設自体の存続も含めて、今後の施設の方向性について検討が必要
	(総合評価)
	管理面においては、施設受付管理業務受託者による日々の点検や、グラウンドの除草作業等を行い、安全な施設管理ができた。また、利用面においてもトラブル等は無く安定的な施設運営ができ、前年度よりも利用者が増加した。 一方で、今後の施設のあり方については、利用制限を解除した活用方法や改修箇所の精査、また施設の存続も含めて検討が必要である。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	施設の老朽化が顕著であり、今後の施設のあり方を検討する必要がある。
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
	施設自体の存続について方向性を検討し、継続していくのであれば、老朽箇所の改修や段階的な制限の解除についても検討を要する。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	花城テニスコート管理運営費			継続	
予算額	6,968 千円	決算額	6,188 千円	前年度決算額	6,311 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑳スポーツ施設の整備				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツ施設の維持管理・整備・充実化を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)
事業概要	安定的な施設運営のため、花城テニスコートの維持管理を行った。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)
	個人利用者への継続的な利用促進のため年間利用券を発行し、団体利用が主体である総合運動公園テニスコートとのすみ分けを行いながら、安定的な施設管理を行った。 ○利用者数：12,930人(個人11,542人、団体1,388人) (R5:14,425人) 主な修繕：照明塔柱上配線修繕、新紙幣対応修繕、電気メーターボックス取付板取替修繕等

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	安全で安心して利用いただける施設の管理運営を継続して行う。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	施設受付管理業務受託者との綿密な情報共有や連携を通じて、日々の運営状況等の把握を行うことができた。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	(総合評価)
	年間を通じて、主に個人利用を中心に多くの市民に利用していただくことができた。ただし、今年度は冬季の積雪のために使用できない期間が約1ヶ月あり、利用者数の減少の要因となった。管理面では、年間を通して大きな修繕等や問題もなく、安定した施設の維持管理運営ができた。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	安全で安心して利用いただける施設の管理運営を継続して行う。
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
	照明設備のLED化も含め、計画的な施設の維持管理及び修繕を実施していく。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	プール管理運営費		継続	
予算額	1,868 千円	決算額	1,772 千円	前年度決算額 1,853 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑳スポーツ施設の整備			
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト			

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツ施設の維持管理・整備・充実化を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)
夏休み期間の指定した日に、花城及び愛発プールを開放。	
(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	
開放日：7/20～8/12(土・日曜日 月(祝)) 利用者数：259人(花城：153人、愛発：106人) (R5 589人 花城：379人、愛発：210人)	

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	安全で安心して利用いただける施設の管理運営を継続して行う。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	安全な施設運営を行うため、地元協力団体と協議を行い、開放期間や運営方法等を検討し、大きな問題はなく、安全な施設運営ができた。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
地元協力団体へ管理や監視業務について協力をいただいているが、人員の確保に苦慮していることから、今後の存続については廃止する方向である。	
(総合評価)	
安全管理や水質管理等については、事故なく、また施設の大きなトラブルもなく運営することができた。 ただし、今後の施設運営については、施設の老朽化が著しく、今後、大規模な修繕が必要となる可能性もあり、また、運営するにあたっての人員の確保も難しくなっていることから、今後の施設の開放については廃止する方向である。	

今後の方向	㊦中止
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	施設の存続が難しいことから、施設利用の廃止について各地区の了承及び市民への周知を行っていく。
中長期的な検討課題(3～5年の期間)	
施設の運用は廃止する方向にあるが、既存施設の管理(解体等も含め)について検討が必要。	

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	東浦体育館管理運営費		継続		
予算額	2,282 千円	決算額	2,048 千円	前年度決算額	1,706 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑳スポーツ施設の整備				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツ施設の維持管理・整備・充実化を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)
事業概要	安定的な施設運営のため、東浦体育館の維持管理を行った。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)
	利用主体である東浦スポーツ協会の協力のもと、効率的な施設管理を行った。 ○利用者数:2,718人(R5:2,679人)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	安全で安心して利用いただける施設の管理運営を継続して行う。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	当体育館は地元スポーツ協会の協力のもと、効率的な施設運営に取り組んだ。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	施設全体の老朽化が進んでおり、今後、大規模な修繕が必要となる可能性も踏まえて施設管理の方向性について検討が必要。 また、平日の一般開放での利用が極端に少なく、さらに、東浦公民館での現金取り扱いや、施設管理人不在となる運用について問題があるため、施設利用については、今後縮小していく方向である。
	(総合評価)
	地元住民をはじめとする利用が多く、年間を通じて地元スポーツ協会の協力をいただき効率的な運営を行うことができた。 しかし、管理面では、施設全体の老朽化が進んでいるため、今後の修繕計画も踏まえて施設運営の方向性について検討が必要である。また、利用者数や維持管理費等の費用対効果など、事業の縮小も見据えて、今後検討を行っていく。

今後の方向	④縮小
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	安全で安心して利用いただける施設の管理運営を継続して行う。
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
	施設の老朽化が進んでおり、計画的な施設の維持管理及び修繕を実施する。 さらに、今後の施設の存続や事業縮小についても検討が必要である。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	粟野スポーツセンター管理運営費		継続		
予算額	29,447 千円	決算額	29,334 千円	前年度決算額	10,261 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑳スポーツ施設の整備				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツ施設の維持管理・整備・充実化を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)
	安定的な施設運営のため、粟野スポーツセンターの維持管理を行った。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)
	各種団体における大会等の利用の他、研修室やグラウンドも備わっており、幅広い用途で市民が利用できるよう日程調整や施設の維持管理を行った。 ○利用者数(グラウンド含)：31,887人(R5:26,531人) 主な修繕：多目的室外壁タイル修繕、非常警報設備修繕、ロビー吹抜け照明設備取替修繕等

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	安全で安心して利用いただける施設の管理運営を継続して行う。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	日常的に、職員等による施設の簡易点検(危険個所の目視点検等)を行い、軽微な修繕等は都度補修作業を行うなど、不具合発生の未然防止に努めた。また、施設受付管理業務受託者との綿密な情報共有や連携を通じて、運営状況等の把握を行い、安定的な施設運営に繋げることができた。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	(総合評価)
	大会等での利用が多い体育館であり、前年度と比較して約13.4%利用者が増加した。また、令和6年度には外壁タイルの修繕を行うなど、施設の老朽化による修繕が多く見られるため、今後も計画的に修繕を行っていく必要がある。その他、職員により日常的な施設の簡易点検を行い、年間を通して大きな問題もなく、安定した施設管理運営ができた。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	安全で安心して利用いただける施設の管理運営を継続して行う。
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
	施設の老朽化が進んでおり、計画的な施設の維持管理及び修繕を実施する。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	金山体育館管理運営費		継続		
予算額	4,504 千円	決算額	4,490 千円	前年度決算額	4,157 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑳スポーツ施設の整備				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツ施設の維持管理・整備・充実化を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)
事業概要	安定的な施設運営のため、金山体育館の維持管理を行った。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)
	主に地区住民が利用主体であり、地区行事等や日常的な利用ができるよう、施設の維持管理を行った。 ○利用者数:4,665人(R5:4,542人)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	安全で安心して利用いただける施設の管理運営を継続して行う。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	施設受付管理業務受託者との綿密な情報共有や連携を通じて、日々の運営状況等の把握を行い、安定的な施設運営に繋げることができた。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	(総合評価)
	前年度と比較して利用者数は若干増加し、地元地区の体育行事や子供会をはじめとした地元団体を中心に、安全に利用していただくことができた。 また、施設受付管理業務受託者との連携や情報共有を行い、日々の運営状況を把握する中で、年間を通して大きな修繕等の問題も無く、安定した施設管理運営ができた。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	安全で安心して利用いただける施設の管理運営を継続して行う。
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
	施設の老朽化が進んでおり、計画的な施設の維持管理及び修繕を実施する。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	中郷体育館管理運営費			継続	
予算額	18,296 千円	決算額	18,142 千円	前年度決算額	9,801 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑳スポーツ施設の整備				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツ施設の維持管理・整備・充実化を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)
事業概要	安定的な施設運営のため、中郷体育館の維持管理を行った。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など) 各種団体における大会等の利用の他、観覧席や研修室、会議室等も備わっており、幅広い用途で市民が利用できるよう日程調整や施設の維持管理を行った。 ○利用者数:34,409人(R5:34,286人) 主な修繕:談話室空調機修繕、会議室空調機修繕、談話室外壁タイル面雨漏り修繕 等

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	安全で安心して利用いただける施設の管理運営を継続して行う。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	日常的に、職員等による施設の簡易点検(危険個所の目視点検等)を行い、軽微な修繕等は都度補修作業を行うなど、不具合発生の未然防止に努めた。また、施設受付管理業務受託者との綿密な情報共有や連携を通じて、運営状況等の把握を行い、安定的な施設運営に繋げることができた。
(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	
施設設備等の老朽化によって、空調機の故障等が相次いだため、今後も計画的な予防修繕も検討が必要である。	
(総合評価)	
年間を通じて市内外から多くの利用があり、前年度と比較して利用者数は、若干増加した。令和6年度は、空調機の故障が相次いだり、利用者への支障などが最低限で留められるよう、予算の確保や早急な修繕対応を行うことができた。その他、日常的な施設の簡易点検、軽微な修繕対応の実施、また施設受付管理業務受託者との連携や情報共有を通じた状況把握を行うなど、年間を通して安定した施設管理運営を行うことができた。	

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	安全で安心して利用いただける施設の管理運営を継続して行う。
中長期的な検討課題(3～5年の期間)	
計画的な施設の維持管理及び修繕を実施する。	

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	きらめきスタジアム運営事業費			継続	
予算額	12,468 千円	決算額	12,467 千円	前年度決算額	15,531 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑳スポーツ施設の整備				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツ施設の維持管理・整備・充実化を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)
事業概要	適正な施設管理のため、指定管理によるきらめきスタジアムの運営を行った。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など) 指定管理者である敦賀市ソフトボール協会と連携し、安定的な施設管理を行った。また、利用者サービス向上のため、指定管理者に対して指導、協議を行った。 ○利用者数:22,005人(R5:15,953人) 主な修繕:放送設備修繕、事務室空調機修繕

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	適正な施設管理を行うため、指定管理者との連携や指導を継続して行う。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	定期的に施設の管理状況等について指定管理者との情報共有を行った。
成果の分析 と評価	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	指定管理者内における人材育成や、施設の利用者拡大(幅広の活用)等、施設の継続性等の方向性について、指定管理者との協議が必要。 また、施設の照明設備についてもLED化の検討が必要。
成果の分析 と評価	(総合評価)
	主たる利用団体である敦賀市ソフトボール協会の主催試合をはじめとして、冬季期間を除き年間を通じて安定的な利用もがあり、前年度と比較して利用者数は約38%増加した。 敦賀市ソフトボール協会としても、利用者増に力を入れており、令和5・6年度は大幅な増加傾向となった。 また、管理面においても、指定管理者との連携や定期的な情報共有を綿密に行い、修繕箇所についてもいち早く把握を行うことで、計画的に対応をすることができた。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	適正な施設管理を行うため、指定管理者との連携や指導を継続して行う。
今後の方向	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
	計画的な施設の維持管理及び修繕を実施する。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	武道館運営事業費			継続	
予算額	13,614 千円	決算額	13,593 千円	前年度決算額	10,144 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑳スポーツ施設の整備				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)	スポーツ施設の維持管理・整備・充実化を行う。
	(基本施策に関連する事業の概要)	適正な施設管理のため、指定管理による武道館の運営を行った。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	指定管理者である敦賀市シルバー人材センターと連携し、安定的な施設管理を行った。 また、利用者サービス向上のため、指定管理者に対して指導・協議を行った。 ○利用者数:11,348人(R5:11,092人) 主な修繕:受水槽給水管漏水修繕、雨漏り部分修繕 等

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)	適正な施設管理を行うため、指定管理者との連携や指導を継続して行う。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)	定期的に施設の管理状況等について指定管理者との情報共有を行った。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	自主事業の方向性について、指定管理者との協議、検討が必要
	(総合評価)	安定的な施設運営のため、指定管理者との意見交換や情報共有を定期的に行った。 一方、利用者数の拡大については、自主事業の方向性等について、指定管理者との協議・検討を行う必要があったなか、令和6年度計画では、利用者のニーズに応える集客を目的とし、太極拳やヨガ、ニュースポーツ教室の実施を行った。今後も、利用者の拡大については引き続き協議・検討を行う。

今後の方向	①継続	
	すぐに取り組む事項(次年度から)	適正な施設管理を行うため、指定管理者との連携や指導を継続して行う。
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)	計画的な施設の維持管理及び修繕を実施する。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	運動公園テニスコート改修事業費			継続	
予算額	24,600 千円	決算額	24,600 千円	前年度決算額	31,031 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑳スポーツ施設の整備				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツ施設の維持管理・整備・充実化を行う
	(基本施策に関連する事業の概要)
	テニス施設を安全・安心して利用してもらうための改修を行った。
	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)
	工事概要 テニスコート(Cコート)の人工芝張替工事 工期 令和6年7月29日から12月20日 加えて、分電盤及び門扉フェンスの更新を行った。

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	管理委託業務の結果等により、適切な施設管理を行い、サービス低下の防止に努める。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	工事实施の際には、団体への周知を行うとともに、施設の窓口への掲示を行い事前周知に努めた。また、利用者の安全に配慮して、重機の搬入搬出が多い初日については休園日に実施した。
	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	(総合評価)
	テニスコートの人工芝張替工事は、令和3年度のBコートに始まり、令和4年度はセンターコート、令和5年度はAコート・練習コート、令和6年度はCコートと4年計画で張替工事が終了し、利用者が快適にプレーできる環境づくりができた。

今後の方向	②完了
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	中長期的な検討課題(3～5年の期間)

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	運動公園管理運営費			継続	
予算額	212,573 千円	決算額	207,515 千円	前年度決算額	166,037 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑳スポーツ施設の整備				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツ施設の維持管理・整備・充実化を行う
	(基本施策に関連する事業の概要)
	体育館や野球場等各施設を安全・安心な施設として維持するための管理運営を行った。
(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)	
各種団体における大会等の利用のほか、多くの市民が利用できるよう日程調整や施設の維持管理を行った。	
利用者数 154,367人(R6) 135,500人(R5)	

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	管理委託業務の結果等により、適切な施設管理を行い、サービス低下の防止に努める。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	日常的に、職員による施設の簡易点検(危険個所の目視点検等)を行い、軽微な修繕等は都度補修作業を行うなど、不具合発生の未然防止に努めた。
(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)	
(総合評価)	
年間を通じ、突発的に発生した設備のトラブルに対しては、早急な修繕対応等を行い、サービス低下の防止に努めた。	
結果、団体主催の大会や練習等での多くの市民等に利用していただくことができた。	

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	管理委託業務の結果等により、適切な施設管理を行い、サービス低下の防止に努める。
中長期的な検討課題(3～5年の期間)	
計画的な施設の維持管理及び修繕を実施する。	

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	運動公園プール管理運営費			継続	
予算額	90,091 千円	決算額	90,607 千円	前年度決算額	82,690 千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑳スポーツ施設の整備				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツ施設の維持管理・整備・充実化を行う
	(基本施策に関連する事業の概要)
事業概要	プール施設を安全・安心な施設として維持するための管理運営を行った。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など) 各種団体における大会等の利用のほか、多くの市民が利用できるよう日程調整や施設の維持管理を行った。 利用者数 30,614人(R6) 28,597人(R5)

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	管理委託業務の結果等により、適切な施設管理を行い、サービス低下の防止に努める。
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	日常的に、職員による施設の簡易点検(危険個所の目視点検等)を行い、軽微な修繕等は都度補修作業を行うなど、不具合発生の未然防止に努めた。
成果の分析 と評価	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
成果の分析 と評価	(総合評価)
成果の分析 と評価	年間を通じ、突発的に発生した設備のトラブルに対しては、早急な修繕対応等を行い、サービス低下の防止に努めた。 結果、団体主催の大会や練習等での多くの市民等に利用していただくことができた。

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	管理委託業務の結果等により、適切な施設管理を行い、サービス低下の防止に努める。
今後の方向	中長期的な検討課題(3～5年の期間)
今後の方向	計画的な施設の維持管理及び修繕を実施する。

令和6年度 自己点検・評価調書【振興基本計画：予算事業】

担当課(施設)：スポーツ振興課

事業名	運動公園プール改修事業費			新規	
予算額	57,112 千円	決算額	49,390 千円	前年度決算額	千円
第2期教育振興基本計画	基本施策⑳スポーツ施設の整備				
第8次総合計画	4 安心と暮らしやすさ⑦楽しく住む敦賀プロジェクト				

事業目的 事業概要 取組状況	(事業の目的)
	スポーツ施設の維持管理・整備・充実化を行う
	(基本施策に関連する事業の概要)
	プールを安全・安心して利用してもらうための改修を行った。
取組状況	(具体的な取り組みの状況・・・実施年月、参加者数、購入量など)
	修繕概要 老朽化したプール吸収冷温水機(1号機)の取替修繕を行った 工期 令和6年5月28日から令和7年3月31日

成果の分析 と評価	(昨年度調書の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)
	—
	(事業を実施する上で工夫した点や改善した点など)
	修繕実施の際には、利用者の安全に配慮して、休園日に実施した。
と評価	(事業を実施する中で出てきた課題や問題点など)
	(総合評価)
	老朽化した冷温水機を取り替えたことにより、施設内の冷暖房効率が向上し、市民が快適に利用できる環境づくりができた

今後の方向	①継続
	すぐに取り組む事項(次年度から)
	吸収冷温水機(2号機)の取替修繕を実施する 中長期的な検討課題(3～5年の期間)

VI 有識者からの意見

○福井大学大学院連合教職開発研究科 教授 中森 一郎

令和の日本型学校教育を推進するにあたり、教職員支援機構（NITS）は子どもの学びと教師の学びは相似形であり主体的対話的で協働的な学びや個別最適な学びは教師にも求められているという考え方を示している。また、そうした学びを実現していくためには教師の「研修観の転換」を図る必要があり、昨年度までNITSで実施していた都道府県の研修担当者を対象にした「研修マネジメント力協働開発プログラム」を今年度から全国7ブロック（北海道・東北・関東甲信越・東海北陸・近畿・中国四国・九州）でも開催し、参加者が自らの実践を省察し、互いに語り合い、それらを記録することを通して気づきや学びを得、教師としての資質能力の向上を目指す研修の全国展開を図っている。

それとともに、NITSは県や市町の教育委員会の学びもまた子どもや教師の学びと相似形であるという考えも示している。すなわち、子どもの学びと教師の学び、そして教育委員会の学びは相似形であり、教育委員会で勤務する行政職員もまた主体的対話的で協働的に学んでいく必要があるということである。こうした考えのもと、今年度から新たに教育長や部長、課長など県や市町の教育行政リーダーを対象にした「教育行政リーダーダイアログ」を全国7ブロックで開催し、教育委員会の「研修観の転換」を図ることとしている。

私自身も県教育委員会での勤務経験があり、教育委員会組織について多少は理解している。行政一般に見られがちな縦割りによる業務の硬直化や他部局との連携の弱さ、前例踏襲、上意下達、各担当者が個業（孤業）になりがちな組織体制のあり方など改善が必要な課題は多い。

折しも先日、令和6年8月に敦賀市役所職員の方がお亡くなりになった件について第三者委員会の報告が出され、上司によるパワハラや長時間勤務による精神的な負荷がその原因として指摘されたという報道があった。このような痛ましい出来事が二度と起きないように市役所全体で再発防止策を講じていくことが求められている。教育委員会も例外ではない。

こうした点も踏まえ、各課においては業務が適切に遂行されているかどうかについて自己点検を行うとともに、職員一人一人の業務量や業務の進め方、管理職のマネジメントが適切であるかどうか等についても点検を行なっていく必要がある。その際に各職員が業務を遂行していく上で主体的対話的で協働的に取り組んでいるかということ観点の一つとして点検していくことを要望したい。このことは職員の働き方改革やWell-Beingの実現にもつながる重要なことであると考えている。

こうした国の方向性や敦賀市の現状をもとに報告書に目を通すと各課に共通する課題が見えてくる。

1点目は前年度の報告書で示された課題への対応が十分ではない課があることである。

具体的には、今年度の課題についての記載内容が前年度とほぼ同じであり、課題解決のためにどのような取り組みをしてきたのかが読み取れないといったことがある。詳しく話を聞いていく中で課題解決に向けてさまざまな取り組みを行っていることを理解できたことが何度かあった。要は記載方法が問題なのである。書式や字数等の制約もあるが、課題解決のために新たに取組んだことやその成果については小さなことであっても具体的に記述していくことが各課、各担当者の取り組みを「見える化」し、市民の理解を得ることにつながる。

2点目は、データの取り扱いについてである。多くの課がデータに基づく経年比較を行なっているが、データの推移についての考察が十分ではない課が多い。1点目にも通じることであるが、なぜそのように推移したのか、その背景にどのような原因やそれに対する対応があったのか等について具体的な記述をもとにデータを示すことを求めたい。

3点目は部局間連携の推進である。例えば部活動の地域移行に関しては、学校教育課や生涯学習課、文化振興課、スポーツ振興課等の連携が欠かせないがその連携が進んでいるようには見えない。この先児童生徒数が減少し高齢者が増加していく中で、従来の枠組みにとらわれるのではなく部局間で連携を図りながら部活動の地域移行や社会教育、文化芸術活動や生涯スポーツ等への市民参加をどのように図っていくかといったことについて施策を企画・立案していく必要がある。

4点目はいじめ対策に象徴される教育委員会主体の取り組みの見直しである。令和6年11月の敦賀市重大事態調査委員会の調査報告書を受けての市教委の対応は教員への周知や研修が主なもので児童会や生徒会など児童生徒による主体的な取り組みを推進していくという視点が弱い。当事者である児童生徒が自分ごととしていじめ問題に向き合う機会がなければ「いじめはどんな理由があってもいけないと思う子どもたちの割合が100%に到達していない。他者の立場に立って考える共感力や、『もし自分がいじめに遭ったとしたら』という視点で考える想像力等が不十分であった」という課題の解決は難しいのではないだろうか。令和の日本型学校教育が目指す「生徒が主語」の学校づくりを進めていくためにも、いじめ対策も含めて校則や学校行事、授業づくりなどさまざまな学校教育活動において、子どもたちの主体的な参画を積極的に進めていくとともに保護者や地域住民に参画を呼びかけるなど「開かれた学校づくり」を進めていただきたい。

教育振興基本計画4年目の自己点検ということで、各課とも概ね当初目標の達成が見込まれるところでありその点は評価できるが、社会が急激に変化しつつある中で当初目標の達成如何だけで教育委員会の取り組みを評価することはかえって組織の硬直化や不活性化につながる恐れがある。教育を取り巻く環境の変化に対して常に情報を収集し、これからの敦賀市の教育を展望しながら柔軟に施策を実施していくことで目標の達成を目指していくことが求められている。

○福井県立大学地域連携センター 教授 黒田 祐二

教育委員会の自己点検・評価の目的は、効果的な教育行政の推進を図ることと、地域住民への説明責任を果たすことである（文部科学省「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（通知）」）。これらの目的を踏まえつつ以下で意見を述べる。

全体に関する意見

1. 効果的な教育行政の推進に関係すること

①敦賀市教育振興基本計画に基づいた施策の実施状況

全体として計画に沿った取組が進められているものと評価される。

②PDCA サイクルの機能性

調書の様式は PDCA サイクルを意識した構造となっており、各事業に対する評価も A・B・C 段階で記載できる形式になっている。これらは取組の点検と改善を促すものになっており、高く評価できる。

記述内容の面では、特に生涯学習課や文化振興課において計画的で効果的な取組が実施されており、PDCA のサイクルが機能している様子を確認できる。ただし、一部の課においては課題の記載が少ない場合や、記載された課題と今後の方向性との対応が弱いと感じられる箇所も見受けられ、改善の余地がある。

③継続性と発展性

事業毎の調書には、単年度の目標にとどまらず、中長期的な視点に立った目標の設定が見られる。教育施策の実現が継続的な取組の中でなされるものであることを確認できる形になっており、高く評価できる。

④計画目標と実績

各課の調書の冒頭には、基本施策に関する目標と実績が記載されており、調書の様式として非常にわかりやすい。

他方、実績をみると未達のものが多い。現行の計画が残り1年となる中、今後はより一層、課題の分析と解決が求められる。

⑤効果検証

調書における効果検証は、アウトプット（研修会や会議などの開催頻度、教室への参加者数などの活動状況）に重点が置かれており、アウトカム（ターゲットになっている児童生徒や市民の意識や行動の変容など、実質的な効果を判断できる指標）の記述が相対的に少ない。真の成果を把握するためにも、今後はアウトカム評価の視点を取り入れることが望まれる。

2. 地域住民への説明責任に関係すること

①内容の明確性

調書は構造化されており、基本施策ごとに PDCA サイクルに沿って説明がなされている。

②わかりやすさ

平易な言葉遣いが意識されており、市民にもわかりやすい表現となっていると考えられる。他方、他の自治体では図表を活用して視認性を高めている例もある。本市においても視覚的に理解しやすい工夫をすることでさらなる改善につながるものと考えられる。

③具体性

前回の調書と比較して、各施策において具体的な活動内容や取組状況が記載されている箇所が多く見られた。他方、一部の箇所では抽象的な記述にとどまり、具体性に欠けるところもあった。

④説得性

取組の実績を数値で示すことで説得力が高まっている箇所が多くある。特に、前年度実績との比較を行っている記述が増えており、取組の効果や進捗の度合いを把握しやすい内容となっている。

3. いじめ重大事態について

令和6年11月11日に提出された調査委員会報告書を踏まえ、市全体で実効性のあるいじめ対応・対策を一層推進していただきたい。特に、報告書が指摘する教職員一人ひとりのいじめに対する理解不足を解消し、すべての教員がいじめ問題を適切に理解し、的確に対応できるよう、教育委員会としての積極的な支援および取組を強くお願いする。

4. 今後の自己点検・評価について

自己点検・評価においては「どのような取組を行ったか」(アウトプット)のみならず、「その効果がどうであったか」(アウトカム)を検討する必要がある。例えば、「どのような研修会や会議を何回行ったか」だけでなく、「その結果、教師や児童生徒の意識や行動に期待される変化や望ましい変化がどのくらい見られたか」を点検・評価することが重要になる。

学校教育課で説明すると、研修会や会議の開催は、基本施策を実現するために大切なステップではあるが、施策が目指しているのはその先にある「児童生徒の変容」である。例えば、基本施策3「社会のグローバル化に対応できる外国語教育の推進」の最終目的は、外国語教育の推進それ自体ではなく、それによって児童生徒がグローバル化に対応できる英語の能力や技能を身につけることである。「研修会・会議の開催→

教師の指導法の変化→児童生徒の変容」という因果関係を想定すると、最後の児童生徒の変容を確認することが重要であり、基本施策を真に実現できたかどうかを評価するためには、この確認が欠かせない。

このように、アウトプットではなくアウトカムを点検・評価するということは、各基本施策が最終的に目指していることを達成できているかどうかを点検・評価することであり、この点検・評価は「効果的な教育行政を推進する」ために欠かせないものである。

5. 次期教育振興基本計画における基本施策の点検・評価について

様式1の「計画目標」は「基本施策」を反映したものであり、「実績」は「基本施策の達成状況」を表したものであると理解できる。例えば、学校教育課における「学校と地域が連携し、ふるさとに興味をもつ子どもを増加させます」という計画目標は、基本施策2「自ら考え、行動する力を身につける教育の推進」を反映した目標であり、実績である「地域行事に参加している子どもたちの割合」はこの基本施策の達成状況を示していると考えられる。

これについて、令和8年度以降の様式を作成する際には、「計画目標が基本施策と十分に関連しているか」および「実績が基本施策の達成状況を適切に表しているか」を検討することが望ましい。基本施策2「自ら考え、行動する力を身につける教育の推進」を例にすると、「学校と地域が連携し、ふるさとに興味をもつ子どもを増加させます」という計画目標は、この基本施策との直接的な関連がやや弱いと考えられる。そして、「自ら考え、行動する力を身につける教育の推進」の達成状況を「地域行事に参加している子どもたちの割合」で評価する妥当性について、疑問が残る。

ふるさとに興味をもつ子どもや地域行事に参加する子どもを増やすことはもちろん重要であるが、基本施策2の趣旨の中では必ずしも中心的に位置づけられにくい。それよりも、より直接的に「一人ひとりが自ら考え、行動する」といった計画目標を設定し、その達成状況を点検するために、「子どもたちの学習場面や日常場面での主体的・自発的な思考・行動」を調査し、その結果を実績として示すことが考えられる。

これは一例であるが、全体的に、基本施策と計画目標およびその実績との関連性について更なる精査が求められる。

加えて、様式1に基本施策と関連する計画目標や実績が記載されていない箇所も見られた。例えば、学校教育課の様式1では、基本施策1・3・4・7・8に関連する計画目標と実績が抜けている。基本施策を実現できているかどうかの点検・評価は不可欠であり、そのための目標設定や実績の記載を充実させることが望まれる。

各課に関する意見

1. 学校教育課

全体を通して敦賀市教育振興基本計画に沿った取組が行われているものと評価される。以下で詳しく述べるが、今後はできるだけアウトプット（研修会や会議の実施状況）だけでなくアウトカム（教師の変化、そして、その先にある児童生徒の変容）も検討し、実質的な効果を点検・評価していただけるとよいであろう。また、未達の計画目標があるため、現状分析と課題の特定を行い、目標到達の道筋を明確にしていきたい。

基本施策1 学びの芽生えを育む幼児教育の推進

- ・幼保小の接続を進めるために、教員、子ども、保護者を対象とした多角的な取組がなされている。これらは高く評価される。
- ・学びの連続性を保つための研修も継続的になされており、高く評価される。
- ・課題として2点挙げられる。①調書における「課題」と「今後の方向性」との対応関係が明確でないため、次回以降は改善をお願いしたい。具体的には、「課題を特定し、その課題を解決するために今後どのように取り組むのか」という流れが明確になるよう整理してほしい。②当該施策を着実に進めるためには、解決すべき課題が複数存在すると考えられるが、現行の調書では課題が1つしか挙げられていない。現状を分析し、必要に応じて複数の課題を提示することを検討してほしい（課題は積極的に挙げていただく方が望ましい）。

基本施策2 自ら考え、行動する力を身につける教育の推進

- ・児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的学び」を促すために、ICT機器を有効活用した取組がなされている。児童生徒によるアンケートの回答がこの取組の有効性を支持している。取組そのものも高く評価されるが、アウトカムを検証していることも高く評価される。
- ・学校と家庭・地域が連携しながら行う「親子で学ぶ道徳講座」は非常に有意義な取組である。講座の前後に行ったアンケートの結果は、講座が意義あるものであったことを示している。取組内容のみならずアウトカムを検証した点も大変高く評価される。
- ・教科書改訂に伴ってカリキュラムを改訂し、小中一貫教育の推進を図っている。また、この一貫として、授業動画を市内の全教員が視聴できる体制が整っている。これらは高く評価される。
- ・児童生徒のつまずきを解消するために小中を通してのきめ細かな取組がなされており、高く評価される。
- ・計画目標に対する実績について、「自他を思いやるあたたかい心をもつ子どもたちの育成に努めます」は目標値を上回っており、評価される。他方、「学校と地域が連携

し、ふるさとに興味をもつ子どもたちを増加させます」と「進んで本を読む子どもたちを増加させます」については未達である。現状の分析と課題、今後の方向性を明確にする必要がある。

- ・今後の方向性として、教育方法等の改善によってアウトカムがどうだったか（子どもたちの「自ら考え、行動する力」が育ったかどうか）を検証していただけると、よりよい点検・評価につながると考える。

基本施策3 社会のグローバル化に対応できる外国語教育の推進

- ・小学校での英語教育の充実を図りつつ、中学校との接続を図る系統性のある教育を推進しており、高く評価される。
- ・発話や表現の機会の確保など、実践的な英語力を育てる工夫がみられる。「社会のグローバル化に対応できる」という施策の主旨に沿った取組であり、高く評価される。
- ・課題が具体的かつ明確に特定され、今後の方向性も明瞭に示されている。
- ・今後の方向性として、教師に対する研修会や会議を何回実施したか（アウトプット）だけでなく、児童生徒が実際に能力や技能等を身につけたかどうか（アウトカム）を検証していただけると、より有意義な点検・評価になると考える。

基本施策4 個々のニーズに合わせた特別支援教育の推進

- ・特別支援教育を推進するための体制整備や専門性向上の取組が進められており、評価される。
- ・個別の指導計画・支援シートをもれなく作成できるように教育委員会が支援しており、高く評価される。また、校長会と連携して小学校から中学校への移行支援を行っている点も高く評価される。さらに、移行支援シートを用いて、幼児・保育園から中学校までの支援が切れ目なく進められるようにしている点も高く評価される。これらは「個々のニーズに合わせた支援」という本施策の趣旨に沿った有意義な取組として高く評価される。
- ・特別支援コーディネーターを対象とした研修が複数回開催されている。
- ・資料の簡素化や支援シートのリニューアルなど、現場の課題に対して柔軟な改善策が講じられている。
- ・今後の方向性として、現状ではアウトプットが中心となっているため、アウトカムの視点を加えていただくことでより有意義な点検・評価につながると考える。

基本施策5 健やかな体の育成を目指した健康・安全教育の推進

- ・計画目標「学校歯科医によるキッズブラッシング教室や小学校1・4年生対象の秋の追加検診を実施して、う歯罹患率を減少させます」が目標値に達している。
- ・物価高の中でも地場産食材の使用率向上に努めるなどの工夫がなされている。数値

をみると、とりわけ県内産の食材使用率が大幅にあがっており、評価される。

基本施策6 いじめや不登校を予防し、防止する生徒指導体制の推進

- ・いじめ重大事態を受け、いじめの対策・防止の方針を制定するとともに、いじめ及び不登校に対する教職員の理解や組織的対応力を高めるための研修会を実施した。
- ・計画目標「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う子どもたちを増加させます」について、数値上は未達だが高い率を保っている。
- ・いじめと不登校はいずれも児童生徒が抱える深刻な課題であり、教育委員会が中心となって市全体で継続的かつ計画的に対策や対応を進めていくことが重要である。これらの課題は、深刻化してから対応していたのでは遅いため、発達支持的生徒指導、課題未然防止教育、課題早期発見対応という3つの予防的生徒指導（文部科学省（2022）『生徒指導提要（改訂版）』）を日常的かつ効果的に実施することが求められる。また、教職員によっていじめや不登校に対する認識や支援方法に差が見られる可能性があるため、各教職員がこれらの課題を適切に理解できるよう研修等の機会を計画的に設け、市全体・学校全体で共通認識をもてるようにする必要がある。さらに、研修等については実施するだけでなくその効果を検証し、改善につなげることが望まれる。

基本施策7 児童・生徒数や社会の変化に対応した学校の整備

- ・施設の改修や整備を計画的に行っている。
- ・ネットワーク環境の問題に対して対応がなされている。

基本施策8 社会の変化に応じた教育活動を行うための教職員の資質及び指導力の向上

- ・「敦賀市「知・徳・体」令和プラン」に、近年重要になっている「安心して学べる場の充実」「探究学習」「情報活用能力の育成」「英語教育の推進」が新たに盛り込まれた。また、GIGAスクール構想やタブレット端末活用に関する研修会が行われた。これらは基本施策の実現に資する取組である。
- ・変化の激しい現代において本施策は重要であり、その実現のためには毎年度新たな課題が生じることが想定される。しかし、調書に記載されている課題は1つのみである。次回以降は、現状分析を踏まえて課題を特定し、その課題に対応する今後の方向性を明示していただきたい。
- ・本施策における重要な点は「教職員の資質及び指導力の向上」であり、これらが実際に向上しているかどうかを検証することが不可欠である。アウトプットだけでなく、アウトカムも測定・評価することを検討していただきたい。

2. 生涯学習課

計画目標は未達であるが、生涯学習を推進するための意義ある取組が数多くなされて

おり、高く評価される。中高年層だけでなく若年層にも積極的にアプローチしている点も高く評価される。

基本施策9 活力ある地域社会の形成

- ・社会教育団体や地域振興組織への支援を通して、地域コミュニティの活性化を図っている。また、課題の把握やその対策も積極的に行っている。これらの点は高く評価される。
- ・学校教育課のデータが示している通り、子どもたちの読書離れが進んでいる。選書や広報の方法を工夫するだけでは限界があり、別のアプローチを模索することも必要ではなかろうか。

基本施策10 社会的な課題に対応する生涯学習の推進

- ・住民の多様なニーズに応える形で講座・教室・啓発活動を展開している。とりわけデジタル教育や家庭教育の推進は、「社会的な課題に対応する生涯学習の推進」にかなった取組であり、高く評価される。
- ・インスタグラムを開設することで、若年層も含めた幅広い層に生涯学習への参加を促している。この点も評価される。
- ・現状ではアウトプット（講座や教室の数、参加人数）の記載が中心であるが、アウトカム（教室や講座を受けた後の受講者の変化や満足度等）を測定・検証することで、より有意義な点検・評価につながると考える。

基本施策11 社会教育施設の整備・充実

基本施策12 地域等と連携した青少年の健全育成

- ・限られた予算の中で社会教育施設の修繕が行われている。
- ・地域と連携して放課後子ども教室を開催し、子どもの体験活動や交流を諮っている。また、社会教育団体への支援や青少年健全育成敦賀市民会議との連携を通して、青少年の健全育成を図っている。
- ・青少年の健全育成に関して、子どもたちが抱える現代的な課題を把握・分析し、それらをテーマにした取組を今後積極的に行ってほしい。

3. 文化振興課

4つの計画目標はほぼ達成されている。また、文化の保存・活用のための意義のある取組が計画的かつ効果的に行われている。

基本施策13 文化意識の向上

- ・関連団体に補助金を交付することにより文化意識の向上を図っている。
- ・文化芸術活動に激励費の支給や表彰を行うことで文化活動の活性化を図っている
- ・敦賀とゆかりのある俳句の大会も継続的に行われている。

基本施策 14 市民文化の活動拠点の整備・充実

- ・鑑賞・参加・育成という3つの事業を行うことで、市民の文化参画を支えている。
- ・博物館や山車会館は、新幹線開業という好機を生かして来館者を増やすとともに、敦賀の歴史と文化を多角的な視点で発信している。
- ・客観的なデータや来館者の声（アンケート）を活用して取組の評価を行っている。

基本施策 15 文化財の保護・支援

- ・文化財保護審議会の開催、無形民俗文化財の補助、食文化ストーリー創出事業など、文化財の保護や支援が適切に行われている。

基本施策 16 文化財の活用の推進

- ・柴田氏庭園の公開・貸室利用、博物館収蔵資料のデジタルアーカイブ化とデータベースの公開など、文化財の活用を推進する取組がなされている。
- ・文化財センターの基本構想が策定され、公開された。
- ・文化財センターと学校教育との有意義な連携を期待したい。

4. スポーツ振興課

全体を通して敦賀市のスポーツの振興や推進につながる取組がなされている。他方、計画目標が未達であるため、現状と課題を分析して今後の方向性を定めていただきたい。

基本施策 17 競技レベル向上に向けたスポーツの振興

- ・スポーツレベル事業、スポーツ少年団補助事業、スポーツ協会補助事業により、競技レベルの向上とスポーツの振興を図っている。
- ・ジュニア層や指導者の育成支援が全国大会出場者の増加につながった点は評価される。
- ・他方、課題と今後の方向性の記述が前回とほぼ同一であった。このままでは、前回の課題が未解決のまま残されていると受け取られる可能性がある。前回の点検・評価で特定された課題について、どのように取り組んだのか、その経過や成果を記載していただきたい。また、施策を実現する過程では、毎年度新たな課題が生じることが想定されるため、毎回同じ課題を繰り返すのではなく、その年度に新たに把握した課題も記載していただきたい。

基本施策 18 生きがいと健康づくりとしてのスポーツの振興

- ・各種スポーツ教室の開催により生涯スポーツの推進と地域スポーツ振興を図っている。
- ・スポーツ教室や出前講座に多数の参加者があったことから、市民の健康増進やスポーツへの関心の向上に一定の成果があったと考えられる。
- ・課題に対する今後の方向性がやや抽象的であるため、より具体的な内容を示してい

ただきたい（例：具体的にどうやって講座内容の充実を図るのか，スポーツ人口の拡大や体力づくり活動のための環境づくりを具体的にどうやって行うか）。

基本施策 19 人のつながりを再生するスポーツ交流の推進

- ・市民のスポーツ交流を推進する多様なスポーツイベントを継続的に計画・実施することができている。
- ・姉妹都市・友好都市とのスポーツ交流の機会を設けていることも，青少年にとって意義があると考えられる。
- ・前回の敦賀マラソン大会の課題を踏まえ，運営上の改善がなされた点も評価される。

基本施策 20 スポーツ施設の整備

- ・限られた予算の中で施設の維持管理や整備がなされている。また，日常的な点検や関係者との情報共有により不具合発生の未然防止に努めている。
- ・施設利用者数は前年比 10%増加であり，顕著な成果である。